

「高校生のための学びの基礎診断」への申請について

平成30年6月28日

①事業者名	株式会社リクルートマーケティングパートナーズ					
②測定ツール名	スタディサプリ 学びの活用力診断～ベーシック～					
③主な対象者	高校1年生、高校2年生 共通必修教科目の定着を必要とする生徒					
④対象教科	国語	数学	英語	⑤測定内容の 区分	基本タイプ	標準タイプ
	○	○	○		○	
⑥申請する測定ツールの目的・概要	高校1年生、高校2年生について、生徒の基礎学力をしっかりと定着させ、応用できる力をつけさせることを目的とし、問題構成にあつては、知識・技能の問題のみでなく、思考力・判断力・表現力を見る問題も合わせて出題します。また、学びの基礎診断の趣旨に鑑みて、生徒に基礎レベルの徹底的な復習を行わせ、定着させ、また指導者に対して、生徒指導に役立つ結果資料を提供することを目的とします。 本ツールではスピーキングは測定せず、問題、採点基準の提供のみとします。					
⑦申請する測定ツールの特長・活用例等	本ツールは「スタディサプリ」との連携を考えて企画しています。測定用問題セット（詳しい解答解説付き）と復習用問題セット（詳しい解答解説付き）からなります。このツールの最大の特長は、問題作成段階から「スタディサプリ」との連携を意識して作成している点です。生徒は測定用問題を受検することにより、基礎項目のどこに定着していない部分があり、またそれら未定着の部分のうち、どこを優先して学習し直せば良いかを把握することができます。また指導者はそれら優先課題について「スタディサプリ for Teachers」を使って、生徒に指示を的確に与えることができ、それらの取り組み状況を把握することができます。					
⑧実施期間、年間実施回数	年1回、1月実施です。（2019年12月1日受検申込み開始予定、2020年1月実施開始予定。）					
⑨実施方式 (CBT/PBT)	PBT					
⑩試験時間(分)	国語		数学		英語	
	50分		50分		50分	
⑪受検料	3000円					
⑫標準返却期間	1.5か月					
⑬URL(事業者のHP における測定ツール 紹介)	https://teachers.study sapuri.jp/shindan					

認定要件への適合性の申告内容について

事業者名:株式会社リクルートマーケティングパートナーズ
測定ツール名:スタディサプリ 学びの活用力診断～ベーシック～
対象教科:国語
測定内容の区分:基本タイプ

I. 出題に関すること

(1)出題の基本方針

- 国語の基礎学力の定着度合いを診断することを目的として、中学校「国語」の学習内容を含めて、高等学校「国語」の「国語総合」の学習内容を中心とした基礎学力の定着度合いを確認したい高校1年生・2年生を主な対象とし、国語の「書くこと」に関する資質・能力、「読むこと」に関する資質・能力を測定します。
- 出題範囲は、中学校「国語」の学習内容と高等学校「国語」の「国語総合」とします。そのうち、「書くこと」に関する資質・能力については、与えられた文章の読解に基づく記述式問題だけでなく、意見交換の場などをテキストで提示し、話題について様々な角度から検討して自分の考えを持ち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見をまとめることを求める問題を出題することで、学習指導要領が求める幅広い言語能力の育成につなげます。また、「読むこと」に関する資質・能力については、現代の社会生活で必要とされている実用的な文章を中心に、内容を理解し要約したり詳述したりする問題を出題することに加え、伝統的な言語文化や漢字について、文語のきまりや語句の意味・用法の理解の定着度合いを測りながら、伝統的な言語文化への興味・関心を広げる問題や、現代の社会生活との関連を意識した問題を出題します。
- 診断は、高校1年生・2年生の各学年に共通の内容で、1年に1回実施されます。中学校「国語」と高等学校「国語」の「国語総合」の学習内容からそれぞれ60%程度、40%程度出題し、高等学校「国語」の学習と定着が進んでいない生徒の診断に資する問題も用意します。

(2)構成等

①出題形式

解答はすべて記述するものとします。その中で、選択式が全体の40%程度、短答式が40%程度とし、残り20%は記述式問題とします。出題形式は選択式・短答式・記述式を組み合わせたものとし、主として知識・技能を問う問題に加え、主としてこれらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を問う問題を出題します。全体として、現代文の読解力（「読むこと」に関する資質・能力）について30%程度、現代文の表現力（「書くこと」に関する資質・能力）について30%程度、古典（「読むこと」に関する資質・能力）について40%程度出題します。

②出題範囲

中学校「国語」の学習内容60%程度、「国語総合」の学習内容40%程度

(3)難易度設定の考え方・方法

- 全体的な難易度は、高校1年生の「基本レベル」に設定しています。文法・語法や語彙の「標準レベル」の具体的範囲については、中学校「国語」および高等学校「国語」の「国語総合」における主要各社の教科書を分析し、大半の受検生にとって学校の復習が主となるように設定しています。
- 上記の範囲における各問題の難易度は、約30年間高校生対象の模擬試験を実施し小問題単位の正答率を保有している協力会社と、スタディサプリ監修講師間で協議し、各問題項目の難易度

を設定しています。その上で各回の難易度が等しくなるよう、協力会社が作成したテスト仕様書に基づき問題項目を設定しています。また、診断終了後、速やかに小問題ごとの正答率を分析し、検討会を開き、常に難易度設定の妥当性をチェックしていきます。合わせて、協力会社が行っている模擬試験のスタッフとも情報共有をして難易度の妥当性チェックを行います。

(4)基礎学力の定着や学習意欲の喚起を図るための工夫

- 現実の社会生活との関連を考えた問題、生徒に多い間違いの原因を考えさせる問題等、作問にあたっては種々の工夫を考えています。
- 文法・語法や語彙について、中学校「国語」や高等学校「国語」の「国語総合」の学習済みの内容の復習が主となる範囲とし、高等学校の授業の定着度合いを把握できる設計としています。
- 受検者が身近に感じる話題や媒体に関する素材を用意し、実際の日常的な社会生活の中での言語活動を意識させる問題設定としています。
- 伝統的な言語文化については、伝統的な言語文化への理解・関心を深め、社会や自分とのかかわりの中で生かす学習につながるような問題設計としています。

(5)その他特長

- 主として思考力・判断力・表現力を問う問題を適切な量入れます。論理的な文章および伝統的な言語文化について内容を読み取り記述させる問題を出題する一方で、論理的な思考力を一般的な表現形式で問う問題なども設定することで、「読むこと」における知識の定着度の測定に加え、「読むこと」および「書くこと」における思考力・判断力・表現力を測ります。
- 話し合いや論述など課題探求に関する言語活動等を想定し、テキストで示された情報を理解・活用し、創造的・論理的思考を経て、文章により表現する力を測る問題設計としています。
- 生徒の読書活動の改善につながるよう、問題を解く前後に関連のある書籍や文献を紹介するなどの情報提供をすることで、関心を広げるよう誘導していきます。
- テスト後、結果の個人帳票では、どの分野の基礎学力が十分でないかをわかりやすく表示し、学力不足を補うために、どのスタディサプリの映像教材を視聴したらよいかを指摘します。それぞれの映像教材には確認テスト（Web 上もしくは紙媒体で提供）も用意します。それらの確認テストの受検後、さらにテストと同じ出題形式の再受検用の問題（紙媒体で提供）も付属します。個人帳票で視聴するように指示したスタディサプリの講座の視聴料、確認テストの利用料は受検料に含まれます。再受検用の問題も同様です。これらの付属教材で学習することによって、不十分であった基礎学力の定着が可能になります。また、指導者に対しても、現状での生徒の基礎学力定着状況を把握できるようなデータを提供し、授業運営に資する資料を提供します。

Ⅱ．結果提供に関すること

(1)受検者個人への結果提供内容・方法

提供内容

個人用帳票

① 総合科目

国語・数学・英語、国語・英語、数学・英語

個別科目

国語、数学、英語

について、

得点（配点）、全国（平均点、偏差値、順位）、都道府県（平均点、偏差値、順位）、校内（平均点、偏差値、順位）

② 設問別成績

(イ) 大問題別成績

大問題ごとに、得点／配点、全国平均点、得点率（グラフ）、「知識・技能」：「思考力・判断力」の割合、表現力評価

(ロ) 観点別評価

教科ごとに、観点別の得点／配点、得点率（英語は技能ごとの得点）

③ 結果詳細レポート

小問題ごとに、設問概要、配点、出題の趣旨、スタディサプリ対応講義、得点、得点率、全国得点率、学年得点率

（特に得点率が低いものについては、色分けをして表示します。）

提供方法

個人用帳票は、学校を通じて紙媒体にて返却します。

(2) 学校等への結果提供内容・方法

提供内容

校内成績概況

① 型別概況

校内受験者数、校内平均点、校内平均偏差値、全国受験者数、全国平均点、全国標準偏差値、都道府県内平均点

② 平均偏差値推移（過年度）

全国偏差値過年度推移

③ 偏差値帯人数

偏差値帯別人数過年度推移、最も人数が増えた偏差値帯

④ 教科・科目別概況

⑤ 教科別偏差値帯別人数

偏差値帯別人数過年度推移

⑥ 結果詳細レポート

問題ごとに、設問概要、配点、出題の趣旨、スタディサプリ対応講義、得点、得点率、全国得点率、学年得点率

（特に得点率が低いものについては、色分けをして表示します。）

学年、学校、クラスごとに作成

⑦ 偏差値帯別分析

各教科・設問ごとの偏差値帯別得点率および人数

⑧ 個人成績一覧

提供方法

紙媒体にて先生用・生徒用それぞれにレポートを提供いたします。

合わせて、スタディサプリコンテンツ（授業動画など）や、事後演習用問題プリントをご提供いたします。

先生向け学習管理システム「for Teachers」を通して、各テスト結果データ、生徒個人々へ各問題に紐づくスタディサプリコンテンツを宿題配信できる機能を提供いたします。

診断結果の提供後、弊社担当者が結果の振り返り、事後活用の提案などを行う「振り返り会」を学校ごとに実施いたします。

以上はすべて本診断の料金に含まれています。

(3) 試験等の結果（正答状況やスコア等）に対する評価の考え方と分析の手法

- 診断の結果、「結果詳細レポート」において、優先的に復習が必要な小問題から優先的に講座動画へ誘導します。また、点数のみでなく、採点時に知識・技能と思考力・判断力・表現力に分けて得点を集計し、これまでに収集したデータに基づいてA～Dの4段階に分けて評価します。また、A～Dが示すものを記述文にて表します。評価の詳しい内容につきましては、事後活用の

提案などを行う「振り返り会」にてご説明いたします。

○点数と評価の対応につきましては、協力会社が約 30 年にわたって小問題ごとに得点を集計し、その難易を追跡していますので、そのデータ等を踏まえて設定します。

Ⅲ. 運営に関すること

(1) 問題の質を確保するための方法

作問体制

- ・複数の問題作成者に問題作成を依頼し、各教科の編集者が、校閲者数名とスタディサプリの講師とともに問題を確定していきます。その際に、問題作成者に問題変更、差し替え等を依頼します。問題の骨子が固まった段階で、組版作業に入ります。
- ・問題確定後、組版が終わった段階で、複数の校正者に問題を回覧し、内容および細かいチェックを行います。内容面のチェックが終了後、形式面のチェックを経て、問題版下は完成となります。また、診断実施後、速やかに小問題ごとの正答率を、想定正答率と照合チェックし、以降の問題作成に反映させます。

(2) 学校における実施方法

- 学校での実施にあたり、事前に「実施のてびき」を配布します。事前に不明な点を確認したい場合や当日トラブルが発生した場合の対応として、本診断専用の問い合わせ窓口（電子メール・電話）を設けます。
- 学校単位、クラス単位で受検することが可能です。
- 学校には、本診断の実施当日の運営を行っていただきます。具体的には、問題冊子・解答用紙の配布、実施時の監督、CD 音声の再生、解答用紙の回収と弊社協力会社への送付を行っていただきます。

(3) 採点の方法と体制

電子採点方式の採用

- ・採点は、すべて電子採点システムで行います。
- ・小問題ごとに切り出した解答を画面に表示して採点し、採点結果を入力します。
- ・採点者は同一問題を連続して採点します。生徒の多様な解答パターンを早期に把握できます。
- ・2 人の採点者が別々に採点して、両者の採点結果を突き合わせます。

採点体制

- ・教科別に採点者グループを組織し、教科リーダーを配置します。さらに採点監督者が全体を統括します。
- ・採点ミスと採点者による採点結果のばらつきをなくすために、電子採点システムによるダブル採点体制をとります。第一採点者と第二採点者の採点判断が異なっている場合は、照合者が教科リーダーと相談し最終判断をします。
- ・生徒の解答に判断が難しい点があれば、教科リーダーを通じて採点監督者の判断を仰ぎます。判断が分かれるような微妙なケースは、問題作成担当者に連絡して協議します。

採点に関する個人情報管理ならびに信頼性向上に資する方策

- ・電子採点システムによって採点を行うため、画面に表示されるのは切り出された小問題の解答欄だけです。採点者は、調査名や個人情報を知ることはありません。
- ・解答用紙の回収受付・スキャニングおよび保管は、本学力診断専用受付センターで行います。スキャニングデータは、電子採点システムに送られ、一元管理されています。
- ・採点業務は、セキュリティが完備された採点会場で行います。採点関係者の会場への出入りのチェック等、情報漏えい防止のためのシステムを構築しています。
- ・採点者には、個人情報保護に関する研修および秘密保持誓約書の提出を義務付けています。
- ・集計・分析作業は、24 時間セキュリティ管理されたビル内で行います。集計・分析室への入

室は、一般の入室を制限しています。

採点の精度をさらに高める方策

- ・採点者の事前教育においては、問題を実際に解くことで内容に精通した上で採点に取り組みます。その上で採点基準の熟知を図るための徹底した研修を行います。
- ・実際の解答用紙をサンプリングした事前採点を基に、問題作成者の見地からみた採点基準策定の工程を経て、採点基準を加筆・修正し採点業務に取り掛かります。
- ・集計前に採点結果をサンプル調査し、誤採点があった場合は再採点します。

(4)情報管理体制

弊社の定めたセキュリティ・ポリシーに基づき、本診断に係る情報管理体制を構築し、徹底した情報管理を行っています。また、弊社はプライバシーマークを取得しており、協力会社においても同様です。詳しくは以下のサイトをご覧ください。

<http://www.recruit-mp.co.jp/support/privacy.html>

IV. 情報開示に関すること

(1)障害のある受検者等への配慮

拡大文字の問題冊子の提供対応が可能です。また、要望があった場合には、英語リスニングのスキプトを提供いたします。

(2)事前／事後学習教材の有無、内容

スタディサプリサービスおよび、紙媒体での事後演習プリントを準備します。

(3)学習状況等のアンケートの有無、内容

学習および生活習慣等を問うアンケートを実施します。

(4)個人受検の可否

不可

(5)問題内容の情報提供

既出問題・サンプル問題や正答例・解説の学校への配布等を行うことを予定しています。

(6)その他

教育委員会等への情報提供等は、要請に応じ、受検した学校の許諾を得た上で提供することを検討いたします。

認定要件への適合性の申告内容について

事業者名:株式会社リクルートマーケティングパートナーズ
測定ツール名:スタディサプリ 学びの活用力診断～ベーシック～
対象教科:数学
測定内容の区分:基本タイプ

I. 出題に関すること

(1)出題の基本方針

- 数学の基礎学力の定着度合いを診断することを目的として、義務教育段階「数学」の学習内容を含めて、基礎学力の定着度合いを確認したい高校1年生・高校2年生を対象とします。
- 出題範囲は、義務教育段階「数学」の学習内容と高等学校「数学Ⅰ（数と集合、式、図形と計量、二次関数）」とし、学習指導要領の範囲内から出題します。主として知識・技能を問う問題に加え、主としてこれらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を問う問題を出題します。
- 診断は高校1年生・2年生の各学年に共通の内容で、1年に1回実施されます。

(2)構成等

①出題形式

解答はすべて記述するものとします。出題形式は選択式・短答式・記述式を組み合わせたものとし、選択式・短答式といえるものは全体の65%程度とします。また、これらの問題については、詳しい採点基準を作成して採点します。

②出題範囲

「数学Ⅰ」の内容から出題します。ただし、それらは義務教育段階「数学」との融合問題として出題します。

(3)難易度設定の考え方・方法

約30年間高校生対象の模擬試験を実施し小問題単位の正答率を保有している協力会社と、スタディサプリ監修講師間で協議し、各問題項目の難易度を設定しています。その上で各回の難易度が等しくなるよう、協力会社が作成したテスト仕様書に基づき問題項目を設定しています。

また、診断終了後、速やかに小問題ごとの正答率を分析し、検討会を開き、常に難易度設定の妥当性をチェックしていきます。合わせて、協力会社が行っている模擬試験のスタッフとも情報共有をして、難易度の妥当性チェックを行います。

(4)基礎学力の定着や学習意欲の喚起を図るための工夫

現実の社会生活との関連を考えた問題、生徒のよくやる間違いの原因を考えさせる問題等、作問にあたっては種々の工夫を考えています。また、数学においては、特に小問題間の難易差を緩やかにし、生徒が無理なく段階的に解き進むことができるようにします。

(5)その他特長

主として思考力・判断力を問う問題を適切な量入れます。表現力については「数学の答えは、採点者という他人に対して、自らの考えたことを整理して記述し伝えるものである」という観点に立ち、記述答案の採点こそ生徒の表現力を診断する良い機会であるので、各問題の得点のみでなく、解答記述の表現力も同時に診断するように、採点にあたっては細かい採点基準を作り採点します。

テスト後、結果の個人帳票には、どの分野の基礎学力が十分でないかをわかりやすく表示し、

学力不足を補うために、どの映像教材を視聴したらよいかを指摘します。それぞれの映像教材には確認テスト（Web 上もしくは紙媒体で提供）も用意します。

それらの確認テストの受検後、さらにテストと同じ出題形式の再受検用の問題（紙媒体で提供）も付属します。個人帳票で視聴するように指示したスタディサプリの講座の視聴料、確認テストの利用料は受検料に含まれます。再受検用の問題も同様です。

これらの付属教材で学習することによって、不十分であった基礎学力の定着が可能になります。また、指導者に対しても、現状での生徒の基礎力定着状況を把握できるようなデータを提供し、授業運営に資する資料を提供します。

Ⅱ．結果提供に関すること

（略）※国語の申請様式参照

Ⅲ．運営に関すること

（略）※国語の申請様式参照

Ⅳ．情報開示に関すること

（略）※国語の申請様式参照

認定要件への適合性の申告内容について

事業者名:株式会社リクルートマーケティングパートナーズ
測定ツール名:スタディサプリ 学びの活用力診断～ベーシック～
対象教科:英語
測定内容の区分:基本タイプ

I. 出題に関すること

(1)出題の基本方針

- 英語の基礎学力の定着度合いを診断することを目的として、中学校「英語」の学習内容を含めて、高等学校「英語」の「コミュニケーション英語Ⅰ」の学習内容を中心とした基礎学力の定着度合いを確認したい高校1年生・2年生を主な対象とし、英語の「聞くこと」(Listening)に関する力、「読むこと」(Reading)に関する力、「書くこと」(Writing)に関する力、「話すこと」(Speaking)に関する力を測定します。なお、「話すこと」に関する力については、本ツールでは、測定することに代えて、問題、解答例、および採点基準を提供します。
- 出題範囲は、中学校「英語」の学習内容と高等学校「英語」の「コミュニケーション英語Ⅰ」とし、日常生活で実際に英語でコミュニケーションを図る場面を意識させたり、英語を日常生活で使用する人々の生活や文化の理解が深まるような素材を用いたりして、学習指導要領が求める言語活動に対応した問題を出題します。
- 診断は、高校1年生・2年生の各学年に共通の内容で、1年に1回実施されます。中学校「英語」と高等学校「英語」の「コミュニケーション英語Ⅰ」の学習内容からそれぞれ50%程度ずつ出題し、高等学校「英語」の学習と定着が進んでいない生徒の診断に資する問題も用意します。

(2)構成等

①出題形式

出題形式は選択式・短答式・記述式を組み合わせたものとし、主として知識・技能を問う問題に加え、主としてこれらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を問う問題を出題します。後者のうち「書くこと」(Writing)については、5～10語程度の記述式問題を2問程度出題します。

Listening: 選択式 90%程度(9問程度)、短答式 10%程度(1問程度)

CDにより実施します。

Reading: 選択式 85%程度(20問程度)、短答式 15%程度(4問程度)

Writing: 原則として記述式、一部短答式(2問程度(最小5語程度、最大10語程度))

Speaking: 本ツールでは、測定することに代えて、問題、解答例、および採点基準を提供

※PBT方式により3技能を測定します。

②出題範囲

- ・中学校「英語」の学習内容 50%程度、「コミュニケーション英語Ⅰ」の学習内容 50%程度
- ・Listening: 20分、Reading: 20分、Writing: 10分

(3)難易度設定の考え方・方法

- 全体的な難易度は、「基本レベル」に設定しています。文法・語法や語彙の「基本レベル」の具体的範囲については、文部科学省教育課程編成・実施状況調査(平成25年)による「コミュニケーション英語Ⅰ」の開設状況(普通科においては、「コミュニケーション英語Ⅰ」が1年次: 90.2%、2年次: 4.5%)を勘案しつつ主要各社の教科書を分析し、大半の受検生にとって学校の復習が主となるように設定しています。

- CEFR のレベルでは、「A2 レベル」(ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解でき、簡単で日常的な範囲なら、身近な日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる程度の英語力)を中心に測定できるよう設計しております。
- 上記の範囲における各問の難易度は、約 30 年間高校生対象の模擬試験を実施し小問題単位の正答率を保有している協力会社と、スタディサプリア監修講師間で協議し、設定しています。その上で各回の難易度が等しくなるよう、協力会社が作成したテスト仕様書に基づき問題項目を決定しています。また、診断終了後、速やかに小問題ごとの正答率を分析し、検討会を開き、常に難易度設定の妥当性をチェックしていきます。合わせて、協力会社が行っている模擬試験のスタッフとも情報共有をして、難易度の妥当性チェックを行います。

(4)基礎学力の定着や学習意欲の喚起を図るための工夫

- 文法・語法や語彙について、中学校「英語」や高等学校「英語」の「コミュニケーション英語Ⅰ」の学習済みの内容の復習が主となる範囲とし、高等学校の授業の定着度合いを把握できる設計としています。
- 受検者が身近に感じる話題や媒体に関する素材を用意し、実際に英語でコミュニケーションを図る場面を意識させる問題設定としています。

(5)その他特長

- 主として思考力・判断力・表現力を問う問題を適切な量入れます。表現力については、英語としての表現は稚拙であるものの文法的には減点しづらいという答案を避ける工夫をした設問も用意します(まず答案として書くべき適切な表現を日本語で書かせ、それにも配点を設け、同時にその内容を英語で表現できるかを問う問題等)。
- テスト後、結果の個人帳票には、どの分野の基礎学力が十分でないかをわかりやすく表示し、学力不足を補うために、どの映像教材を視聴したらよいかを指摘します。それぞれの映像教材には確認テスト(Web 上もしくは紙媒体で提供)も用意します。それらの確認テストの受検後、さらにテストと同じ出題形式の再受検用の問題(紙媒体で提供)も付属します。個人帳票で視聴するように指示したスタディサプリアの講座の視聴料、確認テストの利用料は受検料に含まれます。再受検用の問題も同様です。これらの付属教材で学習することによって、不十分であった基礎学力の定着が可能になります。また、指導者に対しても、現状での生徒の基礎力定着状況を把握できるようなデータを提供し、授業運営に資する資料を提供します。

Ⅱ. 結果提供に関すること

(略) ※国語の申請様式参照

Ⅲ. 運営に関すること

(2)学校における実施方法

- 「話すこと」(Speaking)に関する力について、本ツールでは、測定することに代えて、問題、解答例、および採点基準の提供を行いますので、学校での実施マニュアル、得点ごとの応答例、採点研修用ツールを提供いたします。
- (略) ※その他の内容は、国語の申請様式参照

Ⅳ. 情報開示に関すること

(略) ※国語の申請様式参照

(様式3)

認定要件への適合性を示す書類等一覧について

事業者名：株式会社リクルートマーケティングパートナーズ
測定ツール名：スタディサプリ 学びの活用力診断～ベーシック～
対象教科：国語・数学・英語
測定内容の区分：基本タイプ

I. 出題に関すること

＜提出任意の書類等＞

書類等の内容	書類等の名称	資料番号	対応する認定基準				
			I. (1)	I. (2)	I. (3)	I. (4)	I. (5)
なし							

II. 結果提供に関すること

＜提出任意の書類等＞

書類等の内容	書類等の名称	資料番号	対応する認定基準	
			II. (1)	II. (2)
成績表	個人成績表	II-1	○	
各小問とスタディサプリの講座を紐付ける教師用補助資料	結果詳細レポート(教師用)	II-2	○	
各小問とスタディサプリの講座を紐付ける生徒用補助資料	結果詳細レポート(生徒用)	II-3	○	
より詳細な教師用資料	校内成績資料	II-4	○	
個人成績表「観点別評価」における評価文	A～Dの4段階評価について	II-5		○

III. 運営に関すること

＜提出必須の書類等＞

書類等の内容	書類等の名称	資料番号
実施要項(試験時間、実施方式、実施期間、受検料、標準返却期間等)	実施要項	III-1
学校用実施マニュアル	実施のてびき	III-2

＜提出任意の書類等＞

書類等の内容	書類等の名称	資料番号
体制図	活用力診断 情報管理体制資料	III-3

IV. 情報開示に関すること

＜提出任意の書類等＞

書類等の内容	書類等の名称	資料番号
学習状況アンケート	教科に関するアンケート調査	IV-1

スタディサプリ 学びの活用力診断～ベーシック～ 実施要項

高校1年生、高校2年生について、生徒の基礎学力をしっかりと定着させ、応用できる力をつけさせることを目的とし、問題構成にあつては、知識・技能の問題のみでなく、思考力・判断力・表現力を見る問題も合わせて出題します。

また、学びの基礎診断の趣旨に鑑みて、生徒に基礎レベルの徹底的な復習を行わせ、定着させ、また指導者に対して、生徒指導に役立つ結果資料を提供することを目的とします。

なお、英語のスピーキングは測定せず、問題、採点基準の提供のみとなります。

特 徴

「スタディサプリ 学びの活用力診断～ベーシック～」では、スタディサプリとの連携を考えて企画しています。測定用問題セット(詳しい解答解説付き)と復習用問題セット(詳しい解答解説付き)から構成され、問題作成段階からスタディサプリとの連携を意識して作成されています。

生徒は測定用問題を受検することにより、基礎項目のどこに定着していない部分があり、またそれら未定着の部分のうち、どこを優先して学習し直せば良いかを把握することができます。また教員はそれら優先課題について「スタディサプリ for Teachers」を利用して、生徒への指導に役立て、それらの取り組み状況を把握することが可能になります。

実施スケジュール

	申込期間	統一実施日	返送期限	成績送付
1月	11月25日～1月10日	1月25日(土)	2月5日(水) 必着	実施日より1.5ヵ月後

実 施 方 式

PBT

受 検 料

3,000円(消費税込)

※スタディサプリとのセット料金もあります。

配点・時間・出題範囲

教科		国語	数学	英語
出題 教科	配点	100点	100点	100点
	時間	50分	50分	50分
	出題 範囲	・ 中学校「国語」の内容 6割程度 ・ 「国語総合」の内容 4割程度	・ 「数学Ⅰ」の内容から出題 (義務教育段階「数学」との融合問題として出題)	・ 中学校「英語」の内容 5割程度 ・ 「コミュニケーション英語Ⅰ」の内容 5割程度 Listening: 20分 Reading: 20分 Writing: 10分

(様式4)

測定しようとする資質・能力の具体的内容について

事業者名:株式会社リクルートマーケティングパートナーズ
 測定ツール名:スタディサプリ 学びの活用力診断～ベーシック～
 対象教科:国語
 測定内容の区分:基本タイプ

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数, 出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
- 与えられた文章に即して, 内容読解において重要な役割を果たす<u>語句の意味を理解</u>することができる。 - 義務教育段階までに得た語句の知識を活用して文章を読むことができる。	【設問数】 2問程度 【出題形式】 選択式 サンプル問題 1 番 問 1	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」 C 読むこと	国語総合 2 C 読むこと (1) オ 幅広く本や文章を読み, 情報を得て用いたり, ものの見方, 感じ方, 考え方を豊かにしたりすること。 2 [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] (1) イ 言語の特徴や決まりに関する事項 (イ) 文や文章の組立て, 語句の意味, 用法及び表記の仕方などを理解し, 語彙を豊かにすること。 中学校学習指導要領 国語 [第2学年] 2 [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] (1) イ 言語の特徴や決まりに関する事項 (イ) 抽象的な概念を表す語句, 類義語と対義語, 同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し, 語感を磨き語彙を豊かにすること。
- 与えられた文章の<u>展開や論理的な構成を把握</u>し, 内容の理解に役立てることができる。 - 義務教育段階までに得た, 指示語や接続詞の意味や役割を押さえ, 文章読解に役立てることができる。	【設問数】 1～2問程度 【出題形式】 選択式, 短答式	C 読むこと	国語総合 2 C 読むこと (1) エ 文章の構成や展開を確かめ, 内容や表現の仕方について評価したり, 書き手の意図をとらえたりすること。 中学校学習指導要領 国語 [第3学年] 2 C 読むこと (1) イ 文章の論理の展開の仕方, 場面や登場人物の設定の仕方をとらえ, 内容の理解に役立てること。 中学校学習指導要領 国語 [第2学年] 2 C 読むこと (1) ウ 文章の構成や展開, 表現の仕方について, 根拠を明確にして自分の考えをまとめること。

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数，出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
- 与えられた文章について，<u>筆者の主張とその主張の根拠をとらえる</u>ことができる。 - 義務教育段階までに得た，接続詞の役割や文章の構成把握に関する知識などを活用しながら，文章全体の主旨を押さえることができる。	【設問数】 1～2問程度 【出題形式】 選択式，記述式，短答式 サンプル問題 1 番 問 2 サンプル問題 1 番 問 5	B C 書 読 く む こ と	国語総合 2 B 書くこと (1) ア 相手や目的に応じて題材を選び，文章の形態や文体，語句などを工夫して書くこと。 ウ 対象を的確に説明したり描写したりするなど，適切な表現の仕方を考えて書くこと。 2 C 読むこと (1) イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり，必要に応じて要約や詳述をしたりすること。 エ 文章の構成や展開を確かめ，内容や表現の仕方について評価したり，書き手の意図をとらえたりすること。 中学校学習指導要領 国語 [第2学年] 2 C 読むこと (1) イ 文章全体と部分との関係，例示や描写の効果，登場人物の言動の意味などを考え，内容の理解に役立てること。
- 与えられた文章に沿って，<u>指示語の指すものを理解したり，抽象的な表現が指す具体的な内容を理解したりする</u>ことができる。 - 義務教育段階までに得た，指示語や接続詞の意味，比喩表現などの役割を押さえ，文章読解に役立てることができる。	【設問数】 1～3問程度 【出題形式】 選択式，記述式，短答式 サンプル問題 1 番 問 3 サンプル問題 1 番 問 4	B C 書 読 く む こ と	国語総合 2 B 書くこと (1) ア 相手や目的に応じて題材を選び，文章の形態や文体，語句などを工夫して書くこと。 ウ 対象を的確に説明したり描写したりするなど，適切な表現の仕方を考えて書くこと。 2 C 読むこと (1) イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり，必要に応じて要約や詳述をしたりすること。 エ 文章の構成や展開を確かめ，内容や表現の仕方について評価したり，書き手の意図をとらえたりすること。 中学校学習指導要領 国語 [第2学年] 2 C 読むこと (1) イ 文章全体と部分との関係，例示や描写の効果，登場人物の言動の意味などを考え，内容の理解に役立てること。

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数，出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
- 与えられた文章をふまえ，<u>自分自身の考えを深め，意見の発表に役立てることが</u>できる。 - 義務教育段階までに得た表現力に基づき，自分の考えを端的に示すことができる。	【設問数】 1 問程度 【出題形式】 選択式，記述式	B C 書 読 く む こ と	国語総合 2 B 書くこと（1） ア 相手や目的に応じて題材を選び，文章の形態や文体，語句などを工夫して書くこと。 イ 論理の構成や展開を工夫し，論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。 エ 優れた表現に接してその条件を考えたり，書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして，自分の表現に役立てるとともに，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにすること。 2 C 読むこと（1） イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり，必要に応じて要約や詳述をしたりすること。 エ 文章の構成や展開を確かめ，内容や表現の仕方について評価したり，書き手の意図をとらえたりすること。 中学校学習指導要領 国語〔第2学年〕 2 B 書くこと（1） イ 自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして，文章の構成を工夫すること。 2 C 読むこと（1） エ 文章に表れているものの見方や考え方について，知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。
常用漢字の読みに慣れ，主な常用漢字を書くことができる。	【設問数】 4 問程度 【出題形式】 短答式 サンプル問題 2 番 問 1	と「伝 る事項」 と国 語の 特 質 な 言 語 に 関 文 化	国語総合 2 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕（1） ウ 漢字に関する事項 （ア）常用漢字の読みに慣れ，主な常用漢字が書けるようになること。

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数，出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・ <u>日常的な場面等を取り上げた文章を読み，目的・場面・条件に即して要点をまとめることができる。</u> ・ 義務教育段階までに習得した社会生活における<u>課題解決能力を活用して，考えをまとめることができる。</u>	【設問数】 1 問程度 【出題形式】 記述式，短答式 サンプル問題 2 番 問 2 (1)	B C 書 読 く む こ と と	国語総合 2 C 読むこと (1) イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり，必要に応じて要約や詳述をしたりすること。 2 B 書くこと (1) ア 相手や目的に応じて題材を選び，文章の形態や文体，語句などを工夫して書くこと。 イ 論理の構成や展開を工夫し，論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。 ウ 対象を的確に説明したり描写したりするなど，適切な表現の仕方を考えて書くこと。 中学校学習指導要領 国語 [第 2 学年] 2 B 書くこと (1) ア 社会生活の中から課題を決め，多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめること。

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数，出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・ 語句の意味や文における役割，文の構成などを理解することができる。 ・ 義務教育段階までに得た知識を活用しながら，<u>適切な文章表現を用いる</u>ことができる。	【設問数】 2 問程度 【出題形式】 短答式 サンプル問題 2 番 問 1	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」	国語総合 2 [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] (1) イ 言語の特徴やきまりに関する事項 (ア) 国語における言葉の成り立ち，表現の特色及び言語の役割などを理解すること。 (イ) 文や文章の組立て，語句の意味，用法及び表記の仕方などを理解し，語彙を豊かにすること。 中学校学習指導要領 国語 [第 3 学年] 2 [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] (1) イ 言語の特徴や決まりに関する事項 (ア) 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いを理解するとともに，敬語を社会生活の中で適切に使うこと。 (イ) 慣用句・四字熟語などに関する知識を広げ，和語・漢語・外来語などの使い分けに注意し，語感を磨き語彙を豊かにすること。 中学校学習指導要領 国語 [第 2 学年] 2 [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] (1) イ 言語の特徴や決まりに関する事項 (イ) 抽象的な概念を表す語句，類義語と対義語，同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し，語感を磨き語彙を豊かにすること。

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数，出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
- 与えられた素材・資料をもとに論理的な構成や展開を工夫し，自分の考えをわかりやすく説得力のある文章でまとめることができる。 - 義務教育段階までに得た，資料や意見交換の経験をもとに，自分の意見を明確に示すことができる。	【設問数】 1 問程度 【出題形式】 記述式，短答式 サンプル問題 2 番 問 2 (2)	B C 書くこと 読むこと	国語総合 2 B 書くこと (1) ア 相手や目的に応じて題材を選び，文章の形態や文体，語句などを工夫して書くこと。 イ 論理の構成や展開を工夫し，論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。 2 C 読むこと (1) イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり，必要に応じて要約や詳述をしたりすること。 エ 文章の構成や展開を確かめ，内容や表現の仕方について評価したり，書き手の意図をとらえたりすること。 中学校学習指導要領 国語 [第 3 学年] 2 B 書くこと (1) イ 論理の展開を工夫し，資料を適切に引用するなどして，説得力のある文章を書くこと。 中学校学習指導要領 国語 [第 2 学年] 2 B 書くこと (1) ア 社会生活の中から課題を決め，多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめること。 イ 自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして，文章の構成を工夫すること。
- 小説や随筆等を読んで，場面や登場人物の心情などを理解することができる。 - 義務教育段階までの学習に基づき，場面や登場人物の設定を押さえることができる。	【設問数】 3 ～ 4 問程度 【出題形式】 選択式，記述式，短答式	B C 書くこと 読むこと	国語総合 2 B 書くこと (1) ア 相手や目的に応じて題材を選び，文章の形態や文体，語句などを工夫して書くこと。 ウ 対象を的確に説明したり描写したりするなど，適切な表現の仕方を考えて書くこと。 2 C 読むこと (1) ア 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。 ウ 文章に描かれた人物，情景，心情などを表現に即して読み味わうこと。 中学校学習指導要領 国語 [第 3 学年] 2 C 読むこと (1) イ 文章の論理の展開の仕方，場面や登場人物の設定の仕方をとらえ，内容の理解に役立てること。

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数，出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・ 伝統的な言語について， <u>語句の意味や文章における役割を理解</u> することができる。	【設問数】 3～6問程度 【出題形式】 選択式，短答式	質文化「伝統的な言語に関する事項」	国語総合 2 [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] (1) ア 伝統的な言語文化に関する事項 (イ) 文語のきまり，訓読のきまりなどを理解すること。
・ <u>文語のきまり，訓読のきまりなどを理解</u> し，文章読解に役立てることができる。	【設問数】 4～6問程度 【出題形式】 選択式，短答式	質文化「伝統的な言語に関する事項」	国語総合 2 [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] (1) ア 伝統的な言語文化に関する事項 (イ) 文語のきまり，訓読のきまりなどを理解すること。
・ 伝統的な言語で書かれた文章について， <u>書き下し文にしたり，現代語に訳したり</u> することができる。	【設問数】 1～3問程度 【出題形式】 選択式，記述式	の B C 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」	国語総合 2 B 書くこと (1) ア 相手や目的に応じて題材を選び，文章の形態や文体，語句などを工夫して書くこと。 2 C 読むこと (1) ア 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。 2 [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] (1) ア 伝統的な言語文化に関する事項 (イ) 文語のきまり，訓読のきまりなどを理解すること。

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数，出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・ <u>伝統的な言語で書かれた文章を読み，叙述に即して内容を理解し，場面や登場人物の設定・心情を理解することができる。</u> ・ 義務教育段階までに得た古典に関する知識をもとに，<u>伝統的な言語文化を味わうことができる。</u>	【設問数】 2～6 問程度 【出題形式】 選択式，記述式	〔B C 書くこと 読むこと〕 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」	国語総合 2 B 書くこと (1) イ 論理の構成や展開を工夫し，論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。 2 C 読むこと (1) イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり，必要に応じて要約や詳述をしたりすること。 ウ 文章に描かれた人物，情景，心情などを表現に即して読み味わうこと。 2 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕 (1) ア 伝統的な言語文化に関する事項 (ア) 言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き，伝統的な言語文化への興味・関心を広げること。 中学校学習指導要領 国語〔第3学年〕 2 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕 (1) ア 伝統的な言語文化に関する事項 (ア) 歴史的背景などに注意して古典を読み，その世界に親しむこと。 中学校学習指導要領 国語〔第2学年〕 2 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕 (1) ア 伝統的な言語文化に関する事項 (イ) 古典に表れたものの見方や考え方に触れ，登場人物や作者の思いなどを想像すること。
・ <u>伝統的な言語文化の歴史的背景や伝統的な風習・考え方を理解することができる。</u> ・ 義務教育段階までに得た古典に関する知識をもとに，<u>伝統的な言語文化を味わうことができる。</u>	【設問数】 1～2 問程度 【出題形式】 選択式	〔質に関する事項〕 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」	国語総合 2 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕 (1) ア 伝統的な言語文化に関する事項 (ア) 言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き，伝統的な言語文化への興味・関心を広げること。 中学校学習指導要領 国語〔第3学年〕 2 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕 (1) ア 伝統的な言語文化に関する事項 (ア) 歴史的背景などに注意して古典を読み，その世界に親しむこと。

(様式4)

測定しようとする資質・能力の具体的内容について

事業者名:株式会社リクルートマーケティングパートナーズ

測定ツール名:スタディサプリ 学びの活用力診断～ベーシック～

対象教科:数学

測定内容の区分: 基本タイプ

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
三角形, 平行四辺形, ひし形及び台形の面積の求め方を考えることができる。	【設問数】 0～3 問程度 【出題形式】 短答式又は記述式 サンプル問題 2 番	B 量と測定	小学校学習指導要領 算数〔第5学年〕 2 B (1) ア 三角形, 平行四辺形, ひし形及び台形の面積の求め方を考えること。
正の数と負の数の四則計算をすることができる。	【設問数】 0～3 問程度 【出題形式】 短答式又は記述式	A 数と式	中学校学習指導要領 数学〔第1学年〕 2 A (1) ウ 正の数と負の数の四則計算をすること。
簡単な一元一次方程式を解くこと及びそれを具体的な場面で活用することができる。	【設問数】 0～3 問程度 【出題形式】 短答式又は記述式	A 数と式	中学校学習指導要領 数学〔第1学年〕 2 A (3) ウ 簡単な一元一次方程式を解くこと及びそれを具体的な場面で活用すること。 〔用語・記号〕自然数 符号 絶対値 項 係数 移項 $\leq$ $\geq$

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
簡単な連立二元一次方程式を解くこと及びそれを具体的な場面で活用することができる。	【設問数】 0～3 問程度 【出題形式】 短答式又は記述式	A 数と式	中学校学習指導要領 数学〔第2学年〕 2 A (2) ウ 簡単な連立二元一次方程式を解くこと及びそれを具体的な場面で活用すること。 〔用語・記号〕同類項
乗法公式や因数分解の公式を用いる簡単な式の展開や因数分解をすることができる。	【設問数】 0～3 問程度 【出題形式】 短答式又は記述式	A 数と式	中学校学習指導要領 数学〔第3学年〕 2 A (2) イ 簡単な一次式の乗法の計算及び次の公式を用いる簡単な式の展開や因数分解をすること。
因数分解したり平方の形に変形したりして二次方程式を解くことができる。	【設問数】 0～3 問程度 【出題形式】 短答式又は記述式	A 数と式	中学校学習指導要領 数学〔第3学年〕 2 A (3) イ 因数分解したり平方の形に変形したりして二次方程式を解くこと。
二次方程式を解の公式を使って解くことができる。	【設問数】 0～3 問程度 【出題形式】 短答式又は記述式	A 数と式	中学校学習指導要領 数学〔第3学年〕 2 A (3) ウ 解の公式を知り、それを用いて二次方程式を解くこと。

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
相似な図形を見つけて、その相似比から面積比や体積比を求めることができる。	【設問数】 0～3 問程度 【出題形式】 短答式又は記述式 サンプル問題 2 番	B 図形	中学校学習指導要領 数学〔第3学年〕 2 B (1) エ 基本的な立体の相似の意味と、相似な図形の相似比と面積比及び体積比の関係について理解すること。
三平方の定理を具体的な場面で活用することができる。	【設問数】 0～3 問程度 【出題形式】 短答式又は記述式	B 図形	中学校学習指導要領 数学〔第3学年〕 2 B (3) イ 三平方の定理を具体的な場面で活用すること。 〔用語・記号〕 ∞
簡単な無理数の四則計算をすることができる。	【設問数】 0～3 問程度 【出題形式】 短答式又は記述式 サンプル問題 1 番 サンプル問題 2 番	(1) 数と式	数学 I 2 (1) ア 数と集合 (ア) 実数 数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則計算をすること。
集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用することができる。	【設問数】 0～3 問程度 【出題形式】 短答式又は記述式 サンプル問題 1 番	(1) 数と式	数学 I 2 (1) ア 数と集合 (イ) 集合 集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用すること。

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
二次の乗法公式及び因数分解の公式の理解を深め、式を多面的にみたり目的に応じて式を適切に変形したりすることができる。	【設問数】 0～3 問程度 【出題形式】 短答式又は記述式 サンプル問題 1 番	(1) 数と式	数学 I 2 (1) イ 式 (ア) 式の展開と因数分解 二次の乗法公式及び因数分解の公式の理解を深め、式を多面的にみたり目的に応じて式を適切に変形したりすること。
一次不等式の解を求めたり一次不等式を事象の考察に活用したりすることができる。	【設問数】 0～3 問程度 【出題形式】 短答式又は記述式	(1) 数と式	数学 I 2 (1) イ 式 (イ) 一次不等式 不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、一次不等式の解を求めたり一次不等式を事象の考察に活用したりすること。
問題を考える際に、鋭角の三角比と、その相互関係を利用することができる。	【設問数】 0～3 問程度 【出題形式】 短答式又は記述式 サンプル問題 2 番	(2) 図形と計量	数学 I 2 (2) ア 三角比 (ア) 鋭角の三角比 鋭角の三角比の意味と相互関係について理解すること。
鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求めることができる。	【設問数】 0～3 問程度 【出題形式】 短答式又は記述式	(2) 図形と計量	数学 I 2 (2) ア 三角比 (イ) 鈍角の三角比 三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求めること。

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
正弦定理や余弦定理を用いて 三角形の辺の長さや角の大き さを求めることができる。	【設問数】 0～3 問程度 【出題形式】 短答式又は記述式 サンプル問題 2 番	(2) 図形と計量	数学 I 2 (2) ア 三角比 (ウ) 正弦定理・余弦定理 正弦定理や余弦定理について理解し、それらを用いて三角 形の辺の長さや角の大きさを求めること。
三角比を平面図形や空間図形 の考察に活用することができる。	【設問数】 0～3 問程度 【出題形式】 短答式又は記述式 サンプル問題 2 番	(2) 図形と計量	数学 I 2 (2) イ 図形の計量 三角比を平面図形や空間図形の考察に活用すること。 〔用語・記号〕 正弦, $\sin$, 余弦, $\cos$, 正接, $\tan$
事象から二次関数で表される 関係を見いだしたり, 二次関 数のグラフの特徴について理 解することができる。	【設問数】 0～3 問程度 【出題形式】 短答式又は記述式 サンプル問題 1 番	(3) 二次関数	数学 I 2 (3) ア 二次関数とそのグラフ 事象から二次関数で表される関係を見いだすこと。また, 二次関 数のグラフの特徴について理解すること。
二次関数の値の変化につい て, グラフを用いて考察した り最大値や最小値を求めたり することができる。	【設問数】 0～3 問程度 【出題形式】 短答式又は記述式 サンプル問題 1 番	(3) 二次関数	数学 I 2 (3) イ 二次関数の値の変化 (ア) 二次関数の最大・最小 二次関数の値の変化について, グラフを用いて考察したり 最大値や最小値を求めたりすること。

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解し、数量の関係を二次不等式で表し二次関数のグラフを利用してその解を求めることができる。	【設問数】 0～3 問程度 【出題形式】 短答式又は記述式 サンプル問題 1 番	(3) 二次関数	数学 I 2 (3) イ 二次関数の値の変化 (イ) 二次方程式・二次不等式 二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解するとともに、数量の関係を二次不等式で表し二次関数のグラフを利用してその解を求めること。

(様式4)

測定しようとする資質・能力の具体的内容について

事業者名:株式会社リクルートマーケティングパートナーズ
 測定ツール名:スタディサプリ 学びの活用力診断～ベーシック～
 対象教科:英語
 測定内容の区分:基本タイプ

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・中学校学習指導要領に示される言語材料が一定割合用いられた<u>対話を聞き取る</u>ことができる。 ・5回程度の発話からなる対話を聞いて、<u>事実と意見を区別しながら内容を理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。</u> ・対話について、<u>英語の音声的な特徴などに注意しながら聞く</u>ことができる。	【設問数】 5問程度 【出題形式】 選択式 ※ リスニング試験で測定する。 ※ 高等学校の設備を鑑み、また障がいのある生徒への配慮から、本問に類似した形式で「読むこと」を扱う問題（出題形式は選択式、設問数は5問程度）を用意し、一方を選んで解答できるようにする。	聞くこと	コミュニケーション英語 I 2 内容 (1) ア 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。 (2) ア リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら聞いたり話したりすること。 ウ 事実と意見などを区別して、理解したり伝えたりすること。 中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) 言語活動 ア 聞くこと イ 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく聞き取ること。 イ 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ること。 ロ まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ること。 (3) 言語材料 ア 音声 ウ 語、連語及び慣用表現 エ 文法事項

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・ 中学校学習指導要領に示される言語材料が一定割合用いられた<u>対話を聞き取る</u>ことができる。 ・ 10 回程度の発話からなる対話を聞いて、<u>事実と意見を区別しながら内容を理解したり、概要や要点をとらえたり</u>することができる。 ・ 対話について、<u>英語の音声的な特徴などに注意しながら聞く</u>ことができる。	【設問数】 3 問程度 【出題形式】 選択式 ※ リスニング試験で測定する。 ※ 高等学校の設備を鑑み、また障がいのある生徒への配慮から、本問に類似した形式で「読むこと」を扱う問題（出題形式は選択式、設問数は3 問程度）を用意し、一方を選んで解答できるようにする。	聞くこと	コミュニケーション英語Ⅰ 2 内容 (1) ア 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。 (2) ア リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら聞いたり話したりすること。 ウ 事実と意見などを区別して、理解したり伝えたりすること。 中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) 言語活動 ア 聞くこと (ア) 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく聞き取ること。 (イ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ること。 (オ) まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ること。 (3) 言語材料 ア 音声 ウ 語、連語及び慣用表現 エ 文法事項

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・ 中学校学習指導要領に示される言語材料が一定割合用いられた<u>紹介などの文を聞き取る</u>ことができる。 ・ 中学校学習指導要領に示される言語材料を一定割合用いて<u>英語を書く</u>ことができる。 ・ 100 語程度からなる事物に関する紹介などを聞いて、<u>事実と意見を区別しながら内容を理解したり、概要や要点をとらえたりする</u>ことができる。 ・ 事物に関する紹介などを聞いて、それに基づき、<u>情報について、内容の要点を示す語句を用いて、簡潔に書く</u>ことができる。 ・ 事物に関する紹介などについて、<u>英語の音声的な特徴などに注意しながら聞く</u>ことができる。	【設問数】 2 問程度 【出題形式】 選択式、短答式 ※ リスニング試験で測定する。 ※ 高等学校の設備を鑑み、また障がいのある生徒への配慮から、本問に類似した形式で「読むこと・書くこと」を扱う問題（出題形式は選択式・記述式、設問数は 2 問程度）を用意し、一方を選んで解答できるようにする。 サンプル問題【I】	聞くこと・書くこと	コミュニケーション英語 I 2 内容 (1) ア 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。 エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。 (2) ア リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら聞いたり話したりすること。 イ 内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読んだり書いたりすること。 ウ 事実と意見などを区別して、理解したり伝えたりすること。 中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) 言語活動 ア 聞くこと (ア) 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく聞き取ること。 (イ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ること。 (ウ) まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ること。 エ 書くこと (ア) 文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。 (イ) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどすること。 (3) 言語材料 ア 音声 イ 文字及び符号 ウ 語、連語及び慣用表現 エ 文法事項

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・ 中学校学習指導要領に示される言語材料を一定割合用いて<u>英文を話す</u>ことができる。 ・ 教師による発話に対して、与えられた情報や自ら学んだこと、経験したことに基づき、<u>事実と意見を区別して話す</u>ことができる。 ・ <u>英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら話す</u>ことができる。	【設問数】 1 問程度 【出題形式】 その他 ※ スピーキング試験は実施せず。 ※ 高等学校での実施上の制約を鑑み、また障がいのある生徒への配慮から、本測定ツールでは、問題・解答例・採点基準の提供にとどめる。 サンプル問題【Ⅱ】	話すこと	コミュニケーション英語Ⅰ 2 内容 (1) ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。 (2) ア リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら聞いたり話したりすること。 ウ 事実と意見などを区別して、理解したり伝えたりすること。 中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) 言語活動 イ 話すこと (ア) 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく発音すること。 (イ) 自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。 (ウ) 聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすること。 (エ) 与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。 (3) 言語材料 ア 音声 イ 文字及び符号 ウ 語、連語及び慣用表現 エ 文法事項

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・ 中学校学習指導要領に示される言語材料が一定割合用いられた<u>説明などの文を読み、文を完成させることができる。</u> ・ 1 語程度に相当する空所または誤った表現のある、1 ～ 2 文程度の説明などを読んで、<u>情報や考えなどの概要や要点をとらえ、適切な文を完成させることができる。</u> ・ <u>内容の要点を示す語句などに注意しながら読むことができる。</u>	【設問数】 10 問程度 【出題形式】 選択式，短答式 サンプル問題【Ⅲ】	読むこと	コミュニケーション英語Ⅰ 2 内容 (1) イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。 (2) イ 内容の要点を示す語句や文，つながりを示す語句などに注意しながら読んだり書いたりすること。 中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) 言語活動 ウ 読むこと (ｱ) 文字や符号を識別し，正しく読むこと。 (ｲ) 書かれた内容を考えながら黙読したり，その内容が表現されるように音読すること。 (ｳ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。 (3) 言語材料 イ 文字及び符号 ウ 語，連語及び慣用表現 エ 文法事項

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・ 中学校学習指導要領に示される言語材料が一定割合用いられた<u>対話を読み、文を完成させることができる。</u> ・ 5語程度に相当する空所のある1文を含む、2～5回程度の発話からなる対話を読んで、<u>情報や考えなどの概要や要点をとらえ、事実と意見などを区別し、適切な文を完成させることができる。</u> ・ <u>内容の要点を示す語句などに注意しながら読んだり文を作ったりすることができる。</u>	【設問数】 3問程度 【出題形式】 選択式	読むこと（・書くこと）	コミュニケーション英語Ⅰ 2 内容 (1) イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。 (2) イ 内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読んだり書いたりすること。 ウ 事実と意見などを区別して、理解したり伝えたりすること。 中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) 言語活動 ウ 読むこと ㍿ 文字や符号を識別し、正しく読むこと。 ㍿ 書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること。 ㍿ 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。 (3) 言語材料 イ 文字及び符号 ウ 語、連語及び慣用表現 エ 文法事項

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・ 中学校学習指導要領に示される言語材料が一定割合用いられた<u>説明や物語を読む</u>ことができる。 ・ ある程度まとまりのある文章の説明や物語などを読んで、<u>情報や考えなどの概要や要点をとらえ、事実と意見などを区別し、文や文章の言い換えや要旨、空所に適した内容を選ぶ</u>ことができる。 ・ <u>内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読む</u>ことができる。	【設問数】 大問 1 題，全 6 問程度 【出題形式】 選択式	読むこと	コミュニケーション英語 I 2 内容 (1) イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。 (2) イ 内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読んだり書いたりすること。 ウ 事実と意見などを区別して、理解したり伝えたりすること。 中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) 言語活動 ウ 読むこと (ア) 文字や符号を識別し、正しく読むこと。 (イ) 書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること。 (ウ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。 (エ) 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。 (3) 言語材料 イ 文字及び符号 ウ 語、連語及び慣用表現 エ 文法事項

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・ 中学校学習指導要領に示される言語材料が一定割合用いられた<u>説明や物語を読む</u>ことができる。 ・ 中学校学習指導要領に示される言語材料を一定割合用いて<u>英文を書く</u>ことができる。 ・ ある程度まとまりのある文章の説明や物語などを読んで、<u>情報や考えなどの概要や要点をとらえ、事実と意見などを区別する</u>ことができる。 ・ 説明や物語などを読んで、それに基づき、<u>情報について、日本語や英語で簡潔に書く</u>ことができる。 ・ <u>内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読んだり書いたりする</u>ことができる。	【設問数】 大問 1 題，全 1 問程度 【出題形式】 記述式，短答式 サンプル問題【IV】	読むこと・書くこと	コミュニケーション英語 I 2 内容 (1) イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。 エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。 (2) イ 内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読んだり書いたりすること。 ウ 事実と意見などを区別して、理解したり伝えたりすること。 中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) 言語活動 ウ 読むこと (ア) 文字や符号を識別し、正しく読むこと。 (イ) 書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること。 (ウ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。 (エ) 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。 エ 書くこと (ア) 文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。 (イ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。 (ウ) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどすること。 (エ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。 (3) 言語材料 イ 文字及び符号 ウ 語、連語及び慣用表現 エ 文法事項

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・ 中学校学習指導要領に示される言語材料を一定割合用いて<u>英文を書く</u>ことができる。 ・ 与えられた日本語訳，またはイラストやグラフなどを見て，それに基づき，情報や考えなどについて，<u>簡潔に書く</u>ことができる。 ・ <u>内容の要点を示す語句やつながりを示す語句などに注意しながら書く</u>ことができる。	【設問数】 1 問程度 【出題形式】 記述式 サンプル問題【VI】	書くこと	コミュニケーション英語Ⅰ 2 内容 (1) エ 聞いたり読んだりしたこと，学んだことや経験したことに基 づき，情報や考えなどについて，簡潔に書く。 (2) イ 内容の要点を示す語句や文，つながりを示す語句などに注意 しながら読んだり書いたりすること。 中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) 言語活動 エ 書くこと (ア) 文字や符号を識別し，語と語の区切りなどに注意して正し く書くこと。 (イ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。 (ウ) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり，感想， 賛否やその理由を書いたりなどすること。 (エ) 身近な場面における出来事や体験したことなどについて， 自分の考えや気持ちなどを書くこと。 (オ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように， 文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。 (3) 言語材料 イ 文字及び符号 ウ 語，連語及び慣用表現 エ 文法事項

測定しようとする資質・能力 の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
・ 中学校学習指導要領に示される言語材料が一定割合用いられた<u>説明や対話を読む</u>ことができる。 ・ 1～2文程度の説明や対話などを読んで、<u>情報や考えなどの概要や要点をとらえ、下線の引かれた語句や文と同義の内容を選ぶ</u>ことができる。 ・ <u>内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読む</u>ことができる。	【設問数】 5問程度 【出題形式】 選択式	読むこと	コミュニケーション英語Ⅰ 2 内容 (1) イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。 (2) イ 内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読んだり書いたりすること。 中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) 言語活動 ウ 読むこと (ｱ) 文字や符号を識別し、正しく読むこと。 (ｲ) 書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること。 (ｳ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。 (3) 言語材料 イ 文字及び符号 ウ 語、連語及び慣用表現 エ 文法事項

サンプル問題について

事業者名:株式会社リクルートマーケティングパートナーズ
 測定ツール名:スタディサプリ 学びの活用力診断～ベーシック～
 対象教科:国語
 測定内容の区分:基本タイプ
 サンプル問題番号(大問番号):1番

出 題 科 目	中学校「国語」、高校「国語総合」																								
出 題 の ポ イ ン ト	問1…論説文の読解において鍵となる語句の意味を問う問題である。 問2…何について述べられた文章なのか、キーワードを理解しているかを問う問題である。 問3…指示語の理解を切り口に、筆者の問題意識の理解を問う問題である。 問4…キーワードに注目しながら、筆者の主張を制限字数内でまとめる力を問う問題である。 問5…本文と照らし合わせながら、筆者の論点を理解できているかを問う問題である。																								
主 と し て 問 う 能 力	<table><tr><th>小問番号</th><th>知識・技能</th><th>思考力・判断力・表現力等</th></tr><tr><td>問1 ①②</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>問2</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>問3</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>問4</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>問5</td><td></td><td>○</td></tr></table>	小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	問1 ①②	○		問2		○	問3		○	問4		○	問5		○						
小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等																							
問1 ①②	○																								
問2		○																							
問3		○																							
問4		○																							
問5		○																							
出 題 形 式	<table><tr><th>小問番号</th><th>選択式</th><th>短答式</th><th>記述式</th></tr><tr><td>問1 ①②</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>問2</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>問3</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>問4</td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>問5</td><td>○</td><td></td><td></td></tr></table>	小問番号	選択式	短答式	記述式	問1 ①②	○			問2		○		問3	○			問4			○	問5	○		
小問番号	選択式	短答式	記述式																						
問1 ①②	○																								
問2		○																							
問3	○																								
問4			○																						
問5	○																								
主 と し て 問 う 技 能 （英語																									

の み)	
サ ン プ ル 問 題	【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。 四十年ほど前ですが、アメリカのある学者がトランス・サイエンス¹⁾という言葉を作り出しました。トランス・サイエンスについては大阪大学教授の小林傳司氏が『トランス・サイエンスの時代』（NTT出版）という本を出されているので、参考にしていただきたいと思っています。 トランスは「超えた」ですが、「広がった」ととらえたほうがびつたりきます。トランス・サイエンスというのは、「自然環境に拮抗する人工物環境の拡大によって深刻化する地球環境問題、情報技術や生命技術の発展に伴う伝統的生活スタイルや価値観との相克など、社会的存在としての科学技術によって生じているさまざまな問題が、社会システムや思想上の課題として顕在化^①してきている。今や、われわれは、過去の経験に学びつつ、科学技術と人間・社会の間に新たな関係を構築することが求められているのである」（前述書中に引用されている二〇〇一年「科学技術社会論学会」の設立趣意書より）という状況の中で、科学が絡んでいるけれども、もはや科学だけでは結論を出せない広がりをもたざるを得なくなった問題、課題、社会を指しています。 科学化した社会の中で、さまざまな考察を必要とする社会的な問題が浮かび上がり、全体の不確実性を考えたときに、^②科学者の証言は多様な証言の中のひとつではあっても、最終的な意志決定のために一〇〇パーセント活用することはできない。そのような問題が多く現れてきています。 たとえば環境にかかわる問題。花粉症が猛威を振るっているのは杉を植えすぎたからだとか、水害の防護のために河川を工事したために河口の魚類が減ったというようなことが起こると、ほらごらん、人間のやった行為が玉突き現象を起こして環境を破壊している、と非難の矛先は、よく科学・技術に向けられます。環境問題を考える科学観のひとつにそういう傾向があるのは理解できます。しかし、その原因については、科学では意見を言うことはできるけれどもジャッジはできない。 不確実性と、もうひとつは、別の「価値観」があるからです。トキの例では、トキを愛する地域住民や関係者の立場からすれば、トキが豊かに生活していた生態系が望ましいもので、絶滅しかけたのは、人間がおろかにもやってしまった過ちだから元へ戻させよう、と考えます。

たとえば、クジラの問題でもそうかもしれません。捕鯨問題で日本の立場は苦しくなる一方ですが、実際にはクジラが増えすぎてイワシの個体数が減っている、これは科学の世界ではほぼ共通認識です。もちろん国際会議でもそうです。科学以外の政治的なファクターにより、日本が防戦一方になるのは仕方ないことだとしても、捕鯨問題が環境問題ではないという報道がまったくなされないのは、不思議な気がします。それから、タラ。ヨーロッパのほうからアメリカ、大西洋も含めて北方の海に豊かなタラの資源はあったのですが、今は、北ではきわめて限定された資源になってしまった。乱獲が原因という説がありますが、それだけなのか。それにしても減り方がひどい、という説もあります。関係者の価値観からすれば大変なことです。

もつと言えば、温暖化について、温暖化なんてまったく嘘うそっぽいだということを科学的に主張する人もいます。^(注1) IPCCのなかで、温暖化を必ずしもサポートしないデータは削っておこう、という改ざんが実際に行われたという話も伝えられました。^(注2) アル・ゴアの作った映画『不都合な真実』にも、かなり作為が入っています。

それでもやはり私たちは、温暖化に対していま対策をとることが必要だ、という立場なのです。ようやく本題に入りますが、科学者の立場としては一〇〇パーセントこうだとはいえない。そうすると科学者の立場としてどういう表現をすればいいか。

それが、温暖化や地球環境問題、エネルギー問題などではしばしば使われる、「シナリオ」という考え方なのです。⁽³⁾

シナリオという言葉は、本来は自然科学の世界には絶対にありえない話です。自然科学では、原因が結果を生み、その結果が原因となつて、その原因が再び結果を生み、という「原因と結果との連鎖」という形で記述が行われます。一本の糸に、途中からある条件を加えれば分かれ道もあるかもしれないけれど、分かれ道もまた一本の糸、というのが普通の科学の姿です。

しかしながら、不確実な世界での科学の予言はまず、現在の条件を全部網羅することができない。⁽²⁾ そこで、いま知っている条件はこれだけだとすれば、ここからどういう経過を辿るであろうかということに関して、幾つかの可能性を物語にします。それがシナリオです。この物語がシナリオと呼ばれる背景にはもうひとつ、環境問題などに典型的ですが、人間の行為・行動が入ってくるという点があります。人間がアクター（役者）の一つになるのです。

自然科学の「合理性」は、もともと人間の行動に対してはほとんど無力です。

たとえば、日本が温室効果ガス二五パーセント削減という目標を十年の間に実現するという前提に立ち、日本のエネルギーの需給関係から見ると実現不可能なので、では人間の経済活動をこう規制したらこうなるだろう、しかし規制が逆効果を生んだらこうなるだろう、などと、何本かのシナリオが書けるのです。

そうすると、最も楽観的なシナリオと最も悲観的なシナリオというのが、当然できる。何本があるなかで最も悲観的なシナリオが実現してしまったら、二十年后、二十五年後に、あのときこうすればよかった、と後悔の臍^{はら}をかむことになります。われわれが臍をかむだけならまだしも、その次の世代、次の次の世代、もしかしたら自分にとって会うことのない子孫の時代に、地球に生きている人にとってきわめて不利な自然環境なり、エネルギー環境なりを作り出してしまったとすれば、われわれは彼らに対して道義的、倫理的な責任が生じるだろう。トランス・サイエンスの中でも、環境問題やエネルギー問題に関しては、このような問題意識が、今はかなり強くなっています。

(村上陽一郎『人間にとって科学とは何か』)

注1 IPCC：国連気候変動に関する政府間パネル (Intergovernmental Panel on Climate Change) の略。気候変動に関する科学研究から得られた最新の知見を評価し、公表している。

注2 アル・ゴア：アメリカ合衆国の政治家。映画『不都合な真実』において、地球温暖化の深刻さを訴えた。

問一 二重傍線部①・②の語句の意味として最も適当なものをそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

①顕在化

- ア、従来と変わらずに存在すること イ、暗にほのめかすこと ウ、表面に表れてくること
エ、議論が尽くされていること オ、広く知られていること

②網羅

- ア、できる限り満たすこと イ、十分に説明すること ウ、残らず集めつくすこと
エ、あますことなく把握すること オ、吟味すること

問二 傍線部(1)「トランス・サイエンス」とあるが、これを説明した部分を抜き出し、初めと終わりの五字を記せ。(句読点、カギ括弧などがある場合にはそれらも字数に含める。)

問三 傍線部(2)「そのような問題」とあるが、これはどのような問題のことか。その具体例として最も適当なものを一つ選び、記号で答えよ。

- ア、科学者による反対意見が退けられて、科学技術の軍事利用が進められるという問題。
イ、科学の発展によって、古き良き文化や伝統的な生活スタイルが失われるという問題。
ウ、遺伝子治療の進展が望ましいのか、科学の立場からは判断をくだせないという問題。
エ、科学によって、人間の行為が環境を破壊していることが明らかになったという問題。
オ、日本では人道的に杉を植えすぎたために、花粉症が猛威を振るっているという問題。

問四 傍線部(3)「温暖化や地球環境問題、エネルギー問題などではしばしば使われる、『シナリオ』という考え方」とあるが、科学者の立場として表現するときに求められる「シナリオ」とはどのようなものか。七十字以内で答えよ。

問五 本文の内容と合致するものとして最も適当なものを一つ選び、記号で答えよ。

- ア、温暖化は嘘だと主張する人々もいるが、彼らは主張の根拠となるデータを改ざんしていた。

イ、自然科学は、人間がとりうる行動もすべて考慮に入れて確実な予測をたてるべきである。
ウ、現代の社会問題に対して科学が最も悲観的な予測を示すと、人類は後悔することになる。
エ、世界には不確実な要素が多くあるため、ものごとの原因を一つに決めることができない。
オ、科学者は、人々を代表して問題に対する最終的な意志決定をすることが求められている。

【解答・配点・難易度・どんな力を測りたいのか】

問一 語句の意味（基本レベル） 2点×2

①ウ

②ウ

問二 主題の理解（基本レベル） 6点

「自然環境」課題、社会

（別解…トランス…ています。）

問三 筆者の問題意識の理解（基本レベル） 6点

ウ

問一 語句の意味（基本レベル）

※目的…「課題文が読めているかどうか」ということを、「語彙力」という視点で測る。（語彙の不足による読解力不足が大きな課題）

※評価方法…「知識・技能」の項目で評価。

※指導例…「知らない語句は辞書で調べるようにしよう」「論説文で頻出の語句に慣れておこう」

問二 主題の理解（基本レベル）

※目的…「課題文において、考察の切り口となるキーワードの内容を押さえることができるか」を測る。

※評価方法…「思考力・判断力」の項目で評価。

抜き出し方の不備↓「表現力」の項目で減点。

※指導例…「キーワードに注目し、どのようなテーマについて述べられているのかをまとめてみよう」

問三 筆者の問題意識の理解（基本レベル）

※目的…「課題文で何が問題視されているか」ということを理解できているかを測る。特に、指示語および「抽象↓具体の言い換え」に注目しながら論点を押さえる。

※評価方法…「思考力・判断力」の項目で評価。

※指導の方向性…「指示語が指し示すものを押さえよう」「課題文の間

問四 筆者の主張の理解（基本レベル） 8点

人間の行為・行動を考慮しながら、いま知っている条件をもとにこれからどういう経過を辿るかに関して、幾つかの可能性を物語として記述すること。（六八字）

問四 筆者の主張の理解（基本レベル）

題意識を読み取る練習をしよう」

※目的…「筆者の主張につながるキーワードの意味を理解し、課題文の内容をふまえて要点をわかりやすくまとめることができるか」を測る。第一問の核となる問題。

※評価方法…読解について「思考力・判断力」の項目で、制限字数内で過不足なくまとめる力について「表現力」の項目で評価。

（採点基準）採点上の点数記入欄は「読解」「表現」で分ける。

A 「人間の行為・行動を考慮しながら」（2点）↓「普通の科学の姿」との違いを押さえているか。

B 「いま知っている条件をもとに」（2点）↓科学は「現在の条件を全部網羅することができない」という点を押さえているか。

C 「これからどういう経過を辿るかに関して、幾つかの可能性を物語として記述すること」（4点）↓科学者が「シナリオ」として表現するとはどういうことかを押さえているか。

内容読解については、A・B・Cの内容に触れていて8点（読解として評価）。欠けている項目があれば、その項目の加点分は与えない。課題文には書いてあるが本設問の要求からずれることがらを書いた場合、加点も減点もしない。課題文の読解に大きな誤読がある場合は、減点対象となる。また、「A・B・Cに触れることはできたが、

問五 本文の内容理解（基本レベル） 6点

エ

その内容を十分に表現できていない」場合、および「誤字」「マスの使い方」「字数の不備」「不自然な表現」が見られた場合は、一か所につき1点減点とし、「表現」評価欄に減点幅を示す。

（例）そこで、いま知っている条件はこれだけだとすれば、ここからどういう経過を辿るであろうかということに関して、いくつかの可態性を物話にします。

内容↓6点（B・C） 表現↓（マイナス4点） 計↓2点

※指導例…キーワードに注目し、筆者の主張をまとめる練習をしよう」

問五 本文の内容理解（基本レベル）

※目的…短い文を選択肢として示し、本文にかえりながら正誤の判断をくだす力を測る。

※評価方法…「思考力・判断力」の項目で評価。

※指導例…「本文のどこに、どう書かれていたか、選択肢を一つずつ確認しよう」

★予復習・映像教材へのつなげ方（例）

○「語彙」「出題テーマ」との頻出語句」の提示。

○「テーマ・キーワードの読み取り」「問題意識の読み取り」「筆者の主張の読み取り」という論理構造の読み取り指導。

○類似問題の提示 ↓ 「科学論」について慣れる、一般的に議論されて

いるポイントを知識・教養として知る。

○「指示語」「具体抽象の言い換え」といった読解の技術面について指導。

○誤答選択肢の判断の仕方を指導する。

○「理解を深めるために、おすすめの本」を示し、その内容を紹介する。

○「一回読んで終わり」ではなく、課題文をもとに自分の考えを小論文等としてまとめるよう促す。

(参考) 学習指導要領の関連項目	問 1 … 国語総合 2 [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] (1) イ 言語の特徴や決まりに関する事項 (イ) 文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにすること。 中学校学習指導要領 国語 [第 2 学年] 2 [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] (1) イ 言語の特徴や決まりに関する事項 (イ) 抽象的な概念を表す語句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにすること。 問 2 … 国語総合 2 C 読むこと (1) イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。 エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。 中学校学習指導要領 国語 [第 2 学年] 2 C 読むこと (1) イ 文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。 問 3 … 国語総合 2 C 読むこと (1) イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。 エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。 中学校学習指導要領 国語 [第 2 学年] 2 C 読むこと (1) イ 文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。 問 4 … 国語総合 2 B 書くこと (1) ア 相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。 ウ 対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書くこと。 2 C 読むこと (1) イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。 エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。 中学校学習指導要領 国語 [第 2 学年] 2 C 読むこと (1) イ 文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。 問 5 … 国語総合 2 C 読むこと (1) イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。 エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。 中学校学習指導要領 国語 [第 2 学年] 2 C 読むこと (1) イ 文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。
-------------------------	---

(様式5)

サンプル問題について

事業者名:株式会社リクルートマーケティングパートナーズ
測定ツール名:スタディサプリ 学びの活用力診断～ベーシック～
対象教科:国語
測定内容の区分:基本タイプ
サンプル問題番号(大問番号):2番

出 題 科 目	中学校「国語」、高校「国語総合」																			
出 題 の ポ イ ン ト	問 1 … 日常的に触れることが多い文章の形態において、適切な表記・表現を使えるかを問う問題である。 問 2 … 日常的な場面を取り上げた文章を読み、目的や条件に合わせて要点を整理し、まとめる力を問う問題である。 問 3 … 問題解決を目指し、意見を交換したりする場面を想定しながら、考えを整理し、端的にまとめる力を問う問題である。																			
主 と し て 問 う 能 力	<table><tr><th>小問番号</th><th>知識・技能</th><th>思考力・判断力・表現力等</th></tr><tr><td>問 1</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>問 2</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>問 3</td><td></td><td>○</td></tr></table>				小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	問 1	○		問 2		○	問 3		○				
小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等																		
問 1	○																			
問 2		○																		
問 3		○																		
出 題 形 式	<table><tr><th>小問番号</th><th>選択式</th><th>短答式</th><th>記述式</th></tr><tr><td>問 1</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>問 2</td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>問 3</td><td></td><td>○</td><td></td></tr></table>				小問番号	選択式	短答式	記述式	問 1		○		問 2			○	問 3		○	
小問番号	選択式	短答式	記述式																	
問 1		○																		
問 2			○																	
問 3		○																		
主 と し て 問 う 技 能 (英 語 の み)																				

【二】

問一 次に示したのは、学校のホームページに「お知らせ」として掲載する文章である。傍線部①～⑤は、「表記が誤っている語句」あるいは「文脈上明らかに適当でない語句」である。それらをすべて、適当な表記・表現に直せ。ただし、「表記が誤っている語句」については漢字一字で、「文脈上明らかに適当でない語句」については一つの文節で答えよ。(10点)

当校では、六月二日に当校グラウンドにて、運動会を開催いたします。この日に向けて、全校をあげて練習に取り組んでいます。^①
むしろ、最上級生たちは最後の運動会とあつて、非常に熱心に取り組んでいます。ぜひご来場のうえ、生徒たちの努力の成課を^②
拝見してください。^③

午前九時に開会とし、終了予定時刻は午後三時となります。当日は高温になることが予想されますので、ご来場の皆様はくれぐれも熱中障^④にご注意ください。なお、昼食に關しましては、生徒は教室で食べることとします。保護者の方々と一諸^⑤に昼食をとることはできませんので、ご承知おきください。

問二 次に示したのは、ある高校生が、バスで隣り合わせになった高齢の女性と会話している場面である。これを読んで、後の問いに答えよ。

女性…今日は人が多いわね。お祭りでもあるのかしら？

高校生…はい。隣の河原で花火大会があるんです。私もこれから友だちと待ち合わせて観に行くところです。

女性…まあ、そうなの。私も観に行きたいけれど、たぶん無理だわ。前に行ったときは立ちっぱなしで疲れてしまったの。

高校生…今日は、ご高齢の方の優先席もあるそうですよ。

女性…高齢者に優しい社会になってきたのかしら。でも、行き帰りが大変だわ。私、去年腰を痛めてしまっってから、あまり長い距離を歩けなくて。

高校生…そうなんですか。大変ですね。

女性…まだ介護施設に入るつもりはないのだけれど、この辺は電車の駅は遠いしバスの本数も少ないから、どこへいくにも大変なのよ。買い物に行くだけで半日がかりになってしまうの。

高校生…最近、インターネットで食料品や日用品も簡単に買えるから便利ですよ。試してみたらどうですか。

女性…息子たちもそう言うけれど、パソコンやスマートフォンは使い方がよくわからないのよ。家の電話を新しくしたときさえ、何回も教えてもらってやっとかけられるようになったくらいなもの。それに、インターネットでの買い物の方が便利だってみんな言うけれど、配送料がかかるとか、高い商品を売りつけられるとか、そういうことがないか不安だわ。

高校生…そうですね。実際に、詐欺に遭ったということを聞いたこともあります。だから、信頼できる業者を選ぶことは大事ですね。配送料については、無料になるシステムなんかもありますよ。

女性…あら、そうなの。知らないことばかりね。

高校生…インターネットには、情報量が多すぎてなかなか理解したり判断したりすることが難しいという課題はありますね。

女性…そういえばテレビで観たのだけれど、最近はインターネットで仕事を受けたり頼んだりすることもあるっていうのは本当かしら？

高校生…クラウドソーシングですか？家で仕事をしたい人などいろいろな働き方を望む人たちと、コストや手間をかけずに仕事を外注したい企業の利害が一致する、新しい働き方として注目されているそうですね。

女性…私もできれば働きたいわ。年金だけじゃ生活が厳しいし、なにより生きがいになるもの。昔は働いていたのだけれど、もう年だからなかなか雇ってもらえないのよ。私自身も、若い人みたいに頻繁に外にお勤めに出るのは自信がないから、外出が少なくて済む働き方をしたいわ。こう見えて針仕事とか得意なのよ。

高校生…最近、ハンドメイド作品は人気があるし、幼稚園バッグの製作を外注することなんかも増えているみたいですから、そういう仕事は見つかるかもしれませんよ。もしかして、そのかばんもご自分で縫ったのですか？素敵ですね。

女性…そうなの。気づいてもらえてうれしいわ。若い人でもこういうの、使ってくれるかしら？

高校生…ええ。少し柄を変えたり、飾りを工夫したりすると、もったいいかもしれません。

女性…まあ、もっと勉強して頑張らなくちゃ。楽しくなりそうね。

- (1) この高齢の女性が日常生活において現在どのような問題を抱えているのか、その要点をまとめるため、まず会話文から読み取れることを①～⑤に簡条書きで示した。次に、①～⑤で取り上げたことを、後に示したように一つの文章にまとめた。次の簡条書き①～⑤および後の文章中の空欄に当てはめるのに適当な表現を考え、空欄 **A** は五十字程度で、空欄 **B** ～ **D** はそれぞれ五字以上十字以内で答えよ。(句読点、カギ括弧などがある場合にはそれらも字数に含める。)(12点)

〔会話文からわかることを簡条書きで挙げる〕

- ① 腰を痛めてから、長い距離を歩けない。
- ② 電車の駅は遠く、バスの本数も少ないため、どこへ行くにも大変である。
- ③ パソコンやスマートフォンの使い方がよくわからない。
- ④ **A**。
- ⑤ 昔は働いていたけれど、もう年だから働きたくてもなかなか雇ってもらえない。

〔右の①～⑤のポイントを、文章にまとめる〕

- 腰を痛めてから、**B** 地域で暮らすことに身体的な負担を感じている。また、情報化が進む中、**C** に不慣れで、インターネットの利用によって生じる高額な費用や詐欺被害に対する不安もある。働く意欲はあるが、高齢での **D** に直面している。
- (2) (1)でまとめたことについて、高校生は、解決策を考えることにし、まず、グループワークで意見を出し合った。その要点をまとめた次の表において、それぞれの空欄に当てはめるのに適当な表現を考え、三十字以内で答えよ。ただし、それぞれ次に示した条件に従い、指定された語句を使用してまとめること。(句読点、カギ括弧などがある場合にはそれらも字数に含める。)(8点)

〔条件〕

- ・空欄 **E** は、「地域」および「講座」という語句を使用すること。
- ・空欄 **F** は、「生徒や学生」および「養成」という語句を使用すること。

〔グループワークで出し合った意見〕

① 注目した課題

- ・ 高齢者が、情報化社会に十分に適応できていないこと。

② 具体的な対応策

- ・ **E**。

③ ②の課題

- ・ 担当する若者を地域でどう集めるか。
- ・ 講座で使う情報機器やサービスをどう確保するか。

④ ③に対する対応策

- ・ 地域の学校で、**F**。
- ・ 教育機関や自治体が協力して、必要な機材を持ち寄ったり、サービスに関する情報を提供したりする。

【解答・配点・難易度・どんな力を測りたいのか】

問一 表記・表現力（基本レベル） 2点×5

①むしろ ↓（例）特に・とりわけ

②課 ↓ 果

③拝見して ↓（例）ご覧・ご観覧

④障 ↓ 症

⑤諸 ↓ 緒

問二(1) 内容要約（基本レベル） 3点×4

（例）A インターネットで買い物をすると、配送料が高かったり詐欺に遭ったりするのはと心配している（四十四字）

B 交通が不便な（六字）

C 情報機器の使用（七字）

D 再就職の難しさ（七字）

問一 表現・表記（基本レベル）

※目的…日常生活における言語表現活動を想定し、適切な表記・表現でまとめる力を問う。

※評価方法…漢字「知識・技能」の項目で評価。

③一文節でない場合、および「くください」につながらない場合などは、「表現力」の項目で減点。

※指導例…「字形の似ている漢字・同音の漢字の区別をつけよう」「文と文をつなぐ言葉の使い方を練習しよう」「敬語表現の使い方を練習しよう」

問二(1) 内容要約（基本レベル）

※目的…日常的な文章・場面において、内容を理解し、目的・条件に応じて内容をまとめ、伝える力が身に付いているかを測る。また、空欄の前後とつながるように配慮しながら、内容をより一般化・抽象化した表現を選ぶ力も測る。

※評価方法…内容面は「思考力・判断力」の項目で、表現・表記面は「表現力」の項目で評価。

（採点基準）ポイントを満たしていれば、多様な表現を許容する。
A「インターネットでの買い物」「配送料」「詐欺」という3点につき、それぞれ触れていれば「思考力・判断力」の項目で1点ずつ与える。

問(2) 様々な意見を論理的に整理し、まとめる／論理構造を考えて意見を発表する (基本レベル) 4点×2

E (例) 地域の若者が情報機器やサービスの利用の仕方を教える講座を開く (三十字)

F (例) 生徒や学生から希望者を募り、講座を担当する講師として養成する (三十字)

B・Dは、同旨可。「着眼点はよいが、表現が十分でない」という場合、「思考力・判断力」の項目では加点し、「表現力」の項目で減点する。

※指導例…「内容を整理しながら話を読もう(聞こう)」「要点を押さえた簡潔な表現を使えるように練習しよう」

問(2) 様々な意見を論理的に整理し、まとめる／論理構造を考えて意見を発表する (基本レベル)

※目的…意見を論理的に整理する力を測る。また、内容や条件にしたがって、適切な表現でまとめる力を測る。

※評価方法…内容面は「思考力・判断力」の項目で、表現・表記面は「表現力」の項目で評価。

(採点基準…E)

A 「地域の若者が教える講座を開く」 2点

B 「情報機器やサービスの利用の仕方を(教える)」 2点

同旨可。実現可能性の低いものや表現面での不備は、各1点減点。

(採点基準…F)

A 「地域の若者」地域の学校の生徒や学生(を集める) 2点

B 「(地域の若者を) 講師役として養成する」 2点

同旨可。実現可能性が低いものや表現面での不備は、各1点減点。

※指導例…「社会で問題になっていることからについてその問題点と

対応策を調べたり考えたりして、その内容を整理してみよう」

★予復習・映像教材へのつなげ方（例）

- 「現代社会の課題」について具体的な事例を挙げ、背景の理解を促す。
- 論理的な思考、考えの整理の仕方を示し、実践を促す。
- 考えを論理的に整理し、他者と意見を交換したことで、改善につながった社会問題の事例などを示す。
- 具体的・口語的な表現を、より一般化させて要点を明確にした表現に直す練習を促す。
- 限られた字数で、内容を過不足なくまとめる練習を促す。

(参考) 学習指導要領の関連項目	問 1 …国語総合 2 [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] (1) ウ 漢字に関する事項 (ア) 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字が書けるようになること。 イ 言語の特徴やきまりに関する事項 (ア) 国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解すること。 (イ) 文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにすること。 中学校学習指導要領 国語 [第 3 学年] 2 [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] (1) イ 言語の特徴や決まりに関する事項 (ア) 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いを理解するとともに、敬語を社会生活の中で適切に使うこと。 中学校学習指導要領 国語 [第 2 学年] 2 [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] (1) イ 言語の特徴や決まりに関する事項 (イ) 抽象的な概念を表す語句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにすること。 問 2 (1) …国語総合 2 C 読むこと (1) イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。 2 B 書くこと (1) ア 相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。 ウ 対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書くこと。 問 2 (2) …国語総合 2 B 書くこと (1) ア 相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。 イ 論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。 2 C 読むこと (1) イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。 エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。 中学校学習指導要領 国語 [第 3 学年] 2 B 書くこと (1) イ 論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くこと。 中学校学習指導要領 国語 [第 2 学年] 2 B 書くこと (1) ア 社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめること。 イ 自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、文章の構成を工夫すること。
------------------	--

サンプル問題について

事業者名:株式会社リクルートマーケティングパートナーズ
 測定ツール名:スタディサプリ 学びの活用力診断～ベーシック～
 対象教科:数学
 測定内容の区分:基本タイプ
 サンプル問題番号(大問番号):1番

出 題 科 目	数学Ⅰ（数と式、集合と命題、2次関数）																																							
出 題 の ポ イ ン ト	(1)ア、イ…数学Ⅰ（数と式）の簡単な数値計算である。 ウ、エ…数学Ⅰ（数と式）の数値計算の問題であるが、それなりの工夫が必要な問題である。 (2)…数学Ⅰ（集合と命題）の対偶の定義をしっかりと覚えているかどうかの知識を確認する問題である。 (3)①数学Ⅰ（2次関数）の頂点の座標を求めさせる問題である。 ②数学Ⅰ（2次関数）の定められた範囲での最大・最小をグラフを描いて考える問題である。 (4)①，②…数学Ⅰ（2次関数）の2次不等式を解く基本的な問題である。 ③…数学Ⅰ（2次関数）の2次不等式を解く問題である。4つの数値の大小を比較する際に工夫が必要である。																																							
主 と し て 問 う 能 力	<table><tr><th>小問番号</th><th>知識・技能</th><th>思考力・判断力・表現力等</th></tr><tr><td>(1)ア、イ</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>ウ、エ</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>(2)</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>(3)①ア、イ</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>②ウ、エ、オ、カ</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>(4)①</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>②</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>③</td><td></td><td>○</td></tr></table>				小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	(1)ア、イ	○		ウ、エ		○	(2)	○		(3)①ア、イ	○		②ウ、エ、オ、カ		○	(4)①	○		②	○		③		○									
小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等																																						
(1)ア、イ	○																																							
ウ、エ		○																																						
(2)	○																																							
(3)①ア、イ	○																																							
②ウ、エ、オ、カ		○																																						
(4)①	○																																							
②	○																																							
③		○																																						
出 題 形 式	<table><tr><th>小問番号</th><th>選択式</th><th>短答式</th><th>記述式</th></tr><tr><td>(1)ア、イ</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>ウ、エ</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>(2)</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>(3)①ア、イ</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>②ウ、エ、オ、カ</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>(4)①</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>②</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>③</td><td></td><td></td><td>○</td></tr></table>				小問番号	選択式	短答式	記述式	(1)ア、イ		○		ウ、エ		○		(2)		○		(3)①ア、イ		○		②ウ、エ、オ、カ		○		(4)①		○		②		○		③			○
小問番号	選択式	短答式	記述式																																					
(1)ア、イ		○																																						
ウ、エ		○																																						
(2)		○																																						
(3)①ア、イ		○																																						
②ウ、エ、オ、カ		○																																						
(4)①		○																																						
②		○																																						
③			○																																					
主 と し て 問 う 技																																								

能 (英 語 の み)	
-------------------------	--

(必須)

【I】

次の問に答えよ。ただし解答は結果のみ解答欄に記せ。

- (1) $\alpha = 5 + \sqrt{21}$, $\beta = 5 - \sqrt{21}$ とするとき, 次の に当てはまる数を答えよ。

$$\alpha + \beta = \text{ア}, \quad \alpha\beta = \text{イ}$$

である。また,

$$(\sqrt{\alpha} + \sqrt{\beta})^2 = \text{ウ}, \quad \alpha\sqrt{\beta} + \beta\sqrt{\alpha} = \text{エ}$$

である。

- (2) 実数 x に関する次の命題 P を考える。

$$P: x > \sqrt{2} \text{ ならば, } x^2 > 2 \text{ である。}$$

P の対偶を, 上記の P と同様の形で書け。

- (3) 2 次関数 $f(x) = 2x^2 - 2x + 3$ について, 次の に当てはまる数を答えよ。

- ① $y = f(x)$ のグラフの頂点の座標は (,) である。

- ② x の動く範囲を $-1 \leq x \leq 1$ とする。このとき, $f(x)$ は $x = \text{ウ}$ のとき最大値 をとり, $x = \text{オ}$ のとき最小値 をとる。

- (4) 次の問に答えよ。

- ① 不等式 $x^2 - 4x - 2 < 0$ を解け。

- ② 不等式 $2x^2 - 7x - 4 \leq 0$ を解け。

- ③ 連立不等式

$$\begin{cases} x^2 - 4x - 2 < 0 \\ 2x^2 - 7x - 4 \leq 0 \end{cases}$$

を解け。

【Ⅰ】 20点

(1) (数学Ⅰ 数と式)

$$\begin{aligned}\alpha + \beta &= (5 + \sqrt{21}) + (5 - \sqrt{21}) \\ &= \boxed{10}\end{aligned}$$

1点

$$\begin{aligned}\alpha\beta &= (5 + \sqrt{21})(5 - \sqrt{21}) \\ &= 5^2 - 21 \\ &= 25 - 21\end{aligned}$$

$$= \boxed{4}$$

1点

$$\begin{aligned}(\sqrt{\alpha} + \sqrt{\beta})^2 &= \alpha + 2\sqrt{\alpha\beta} + \beta \\ &= (\alpha + \beta) + 2\sqrt{\alpha\beta} \\ &= 10 + 2\sqrt{4} \\ &= 14\end{aligned}$$

1点

$$\sqrt{\alpha} + \sqrt{\beta} > 0 \text{ より}$$

$$\sqrt{\alpha} + \sqrt{\beta} = \sqrt{14}$$

$$\begin{aligned}\alpha\sqrt{\beta} + \beta\sqrt{\alpha} &= \sqrt{\alpha\beta}(\sqrt{\alpha} + \sqrt{\beta}) \\ &= \sqrt{4} \cdot \sqrt{14} \\ &= \boxed{2\sqrt{14}}\end{aligned}$$

2点

(2) (数学Ⅰ 集合と命題)

$$x^2 \leq 2 \text{ ならば } x \leq \sqrt{2} \text{ である。}$$

5点

対偶を考える。

まず考えることは $x > \sqrt{2}$, $x^2 > 2$ の否定であるので、それらが $x \leq \sqrt{2}$, $x^2 \leq 2$ であることがわかればよい。次に、対偶では仮定と結論を入れ替えることがわかればよい。以上のように、知識を正しく運用できればよい。

← 技能 (義務教育段階)

← 知識 (義務教育段階)

技能 (義務教育段階)

← 知識 (数学Ⅰ)

技能 (義務教育段階)

技能

(数学Ⅰ + 義務教育段階)

← 思考力

技能

(数学Ⅰ + 義務教育段階)

← 知識 (数学Ⅰ)

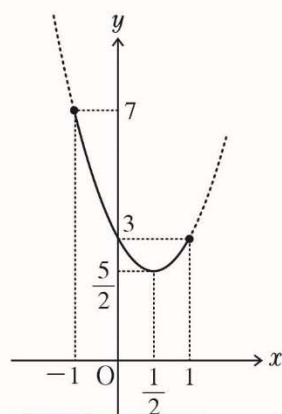
(3) (数学Ⅰ 2次関数)

$$\begin{aligned} \textcircled{1} \quad y &= 2(x^2 - x) + 3 = 2\left\{\left(x - \frac{1}{2}\right)^2 - \frac{1}{4}\right\} + 3 \\ &= 2\left(x - \frac{1}{2}\right)^2 + \frac{5}{2} \end{aligned}$$

これより頂点の座標は $\left(\frac{1}{2}, \frac{5}{2}\right)$ 1点

知能・技能 (数学Ⅰ)

② $y = f(x)$ のグラフを $-1 \leq x \leq 1$ の範囲で描くと、次図のようになる。



知能・技能 (数学Ⅰ)

これより最大値 $\boxed{7}$ ($x = \boxed{-1}$ のとき) 1点
 最小値 $\boxed{\frac{5}{2}}$ ($x = \boxed{\frac{1}{2}}$ のとき) 1点
1点 1点

(4) (数学Ⅰ 2次関数)

$$\textcircled{1} \quad x^2 - 4x - 2 < 0$$

$x^2 - 4x - 2 = 0$ の解は

$$x = 2 \pm \sqrt{6}$$

これより

$$2 - \sqrt{6} < x < 2 + \sqrt{6}$$
 1点

技能 (義務教育段階)

技能 (数学Ⅰ)

$$\begin{aligned} \textcircled{2} \quad & 2x^2 - 7x - 4 \leq 0 \\ & (2x + 1)(x - 4) \leq 0 \\ & -\frac{1}{2} \leq x \leq 4 \end{aligned}$$

1点

技能（数学Ⅰ）

$$\textcircled{3} \quad \begin{cases} x^2 - 4x - 2 < 0 & \cdots \cdots \text{(i)} \\ 2x^2 - 7x - 4 \leq 0 & \cdots \cdots \text{(ii)} \end{cases}$$

$$\textcircled{1} \text{より(i)の解は } 2 - \sqrt{6} < x < 2 + \sqrt{6}$$

$$\textcircled{2} \text{より(ii)の解は } -\frac{1}{2} \leq x \leq 4$$

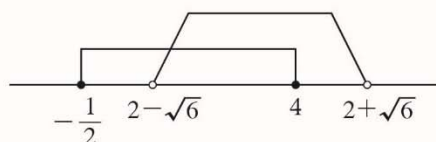
$$2.4^2 = 5.76, \quad 2.5^2 = 6.25 \quad \text{だから} \quad 2.4 < \sqrt{6} < 2.5 \quad \text{より}$$

$$-\frac{1}{2} < 2 - \sqrt{6} < 4 < 2 + \sqrt{6}$$

2点

思考力（数学Ⅰ）

（数の大小を何らかの方法で決定すること）



よって共通部分を考えて

$$2 - \sqrt{6} < x \leq 4$$

1点

技能（数学Ⅰ）

上記の解答には、別解が存在する場合があります。その場合、技能、思考力の配点に留意しながら採点を行います。

(参 考) 学 習 指 導 要 領 の 関 連 項 目	(1) 数学 I 2 (1) ア 数と集合 (ア) 実数 数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則計算をすること。 数学 I 2 (1) イ 式 (ア) 式の展開と因数分解 二次の乗法公式及び因数分解の公式の理解を深め、式を多面的にみたり目的に応じて式を適切に変形したりすること。 (2) 数学 I 2 (1) ア 数と集合 (イ) 集合 集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用すること。 数学 I 2 (3) イ 二次関数の値の変化 (イ) 二次方程式・二次不等式 二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解するとともに、数量の関係を二次不等式で表し二次関数のグラフを利用してその解を求めること。 (3) 数学 I 2 (3) ア 二次関数とそのグラフ 事象から二次関数で表される関係を見いだすこと。また、二次関数のグラフの特徴について理解すること。 数学 I 2 (3) イ 二次関数の値の変化 (ア) 二次関数の最大・最小 二次関数の値の変化について、グラフを用いて考察したり最大値や最小値を求めたりすること。 (4) 数学 I 2 (3) イ 二次関数の値の変化 (イ) 二次方程式・二次不等式 二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解するとともに、数量の関係を二次不等式で表し二次関数のグラフを利用してその解を求めること。
---	---

(様式5)

サンプル問題について

事業者名:株式会社リクルートマーケティングパートナーズ
測定ツール名:スタディサプリ 学びの活用力診断～ベーシック～
対象教科:数学
測定内容の区分:基本タイプ
サンプル問題番号(大問番号):2番

出 題 科 目	数学Ⅰ（図形と計量）																																																							
出 題 の ポ イ ン ト	この問題は従来の数学の問題とは異なり、生徒に問題作成過程を示すことにより、数学の問題がどうやって出来ているかに少しでも関心を持って貰えるように工夫してある。数学の問題は、細かい設定や数値を変えることによって、難しくもなり、易しくも、計算が面倒になったり、簡単になったりする。この問題では点の取り方を変えることによって中学校で学習する知識でも解ける問題から始めて、三角比の知識を利用する必要がある問題まで発展させて考えさせている。																																																							
主 と し て 問 う 能 力	<table><tr><th>小問番号</th><th>知識・技能</th><th>思考力・判断力・表現力等</th></tr><tr><td>(1)</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>(2)</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>(3)</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>(4)</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>(5)</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>(6)</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>(7)</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>(8)</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>(9)</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>(10)</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>(11)</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>(12)</td><td>○</td><td>○</td></tr></table>				小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	(1)	○		(2)	○		(3)	○		(4)	○		(5)	○		(6)	○		(7)	○		(8)	○		(9)	○		(10)	○		(11)	○	○	(12)	○	○													
小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等																																																						
(1)	○																																																							
(2)	○																																																							
(3)	○																																																							
(4)	○																																																							
(5)	○																																																							
(6)	○																																																							
(7)	○																																																							
(8)	○																																																							
(9)	○																																																							
(10)	○																																																							
(11)	○	○																																																						
(12)	○	○																																																						
出 題 形 式	<table><tr><th>小問番号</th><th>選択式</th><th>短答式</th><th>記述式</th></tr><tr><td>(1)</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>(2)</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>(3)</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>(4)</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>(5)</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>(6)</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>(7)</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>(8)</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>(9)</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>(10)</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>(11)</td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>(12)</td><td></td><td></td><td>○</td></tr></table>				小問番号	選択式	短答式	記述式	(1)		○		(2)		○		(3)		○		(4)		○		(5)		○		(6)		○		(7)		○		(8)		○		(9)		○		(10)		○		(11)			○	(12)			○
小問番号	選択式	短答式	記述式																																																					
(1)		○																																																						
(2)		○																																																						
(3)		○																																																						
(4)		○																																																						
(5)		○																																																						
(6)		○																																																						
(7)		○																																																						
(8)		○																																																						
(9)		○																																																						
(10)		○																																																						
(11)			○																																																					
(12)			○																																																					
主 と し て																																																								

問 う 技 能 (英 語 の み)	
--	--

(必須)

【Ⅱ】

$\triangle ABC$ を考える。3つの辺 AB , BC , CA 上に図のように D , E , F としていろいろな点をとって見たとき、 $\triangle DEF$ の面積について、どのようなことが言えるか考えてみよう。

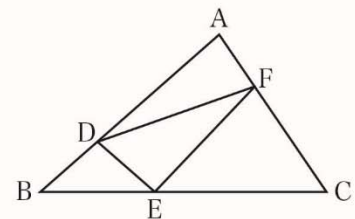


図 1

はじめに $\triangle ABC$ として、 $\angle A$ が直角で、それをはさむ 2 辺の長さが 4, 8 である図 2 のようなものを考える。また D , E , F をそれぞれ辺 AB , 辺 BC , 辺 CA の中点とする。このとき次の(1)に答えよ。

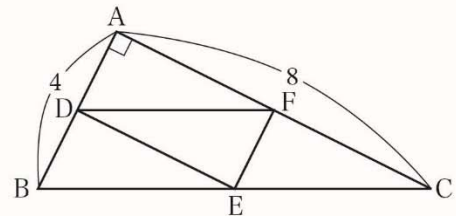


図 2

- (1) 次の に最もよくあてはまる数値を入れよ。

$$DE = \text{ア} AC$$

$$EF = \text{イ} AB$$

$$DF = \text{ウ} BC$$

より $\triangle ABC$ と $\triangle DEF$ の面積については

$$\triangle DEF = \text{エ} \triangle ABC$$

である。

さて、 $\triangle ABC$ の面積は $\angle A = \angle R$ であることより求めることができる。図 2 の図形について、次の(2), (3)に答えよ。

- (2) $\triangle ABC$ の面積を求めよ。
 (3) $\triangle DEF$ の面積を、 $\triangle ABC$ の面積と $\triangle DEF$ の面積の比を使って求めよ。

こんなわけで、 $\triangle ABC$ が直角三角形であり、 D , E , F が中点の場合の $\triangle DEF$ の面積は求めることができた。

では次に、 $\triangle ABC$ を図3のように3辺の長さが4, 5, 6の三角形としてみる。点D, E, Fはまずは中点としてみよう。この場合、 $\triangle DEF$ と $\triangle ABC$ の面積比は相似を利用して求められる。次の(4)に答えよ。

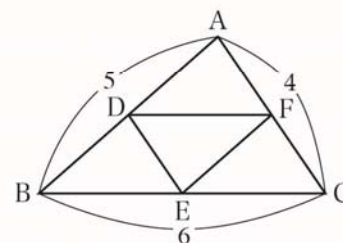


図3

(4) 次の に最もよく当てはまる数値を入れよ。

$$DE = \text{ア} \quad AC = \text{イ}$$

$$EF = \text{ウ} \quad AB = \text{エ}$$

$$DF = \text{オ} \quad BC = \text{カ}$$

$$\text{これより } \triangle DEF = \text{キ} \triangle ABC$$

というわけで、実は直角三角形の場合と同様に $\triangle DEF$ と $\triangle ABC$ の面積の比は求めることができる。

ところが、直角三角形の場合と異なり、 $\triangle ABC$ の面積を求めるのには少し工夫をしなければならぬ。これには三角比の知識を使うことになる。

図3の図形について、次の(5)～(8)に答えよ。

(5) $\cos A$ を求めよ。

(6) $\sin A$ を求めよ。

(7) $\triangle ABC$ の面積 S_1 を求めよ。

(8) $\triangle DEF$ の面積 S_2 を求めよ。

さて、次にもう少し複雑な場合を考えよう。3点D, E, Fが次のようなときを考えてみよう。図4において、AB, BC, CAの長さは図3と同様とし、点D, E, Fの位置は次のように定める。

- $$\begin{cases} D \text{ は線分 } AB \text{ を } 2:3 \text{ の比に分ける点} \\ E \text{ は線分 } BC \text{ を } 2:3 \text{ の比に分ける点} \\ F \text{ は線分 } CA \text{ を } 2:3 \text{ の比に分ける点} \end{cases}$$

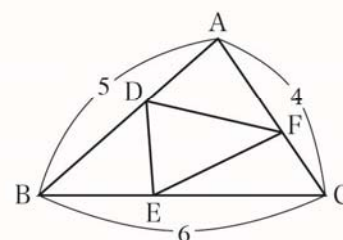


図4

この場合は中点をとったときと異なり、 $\triangle ABC$ と $\triangle EFD$ は相似にはならないので、中点をとった場合とは異なる方法を使わないと $\triangle DEF$ の面積は求まらない。ここでは、次の手順で求めてみよう。

図 4 の図形について，次の(9)～(12)に答えよ。

- (9) $\triangle ADF$ の面積 S_3 を求めよ。
- (10) $\sin B$, $\sin C$ を求めよ。
- (11) $\triangle BDE$, $\triangle CEF$ の面積を求めよ。
- (12) $\triangle DEF$ の面積を求めよ。

このように，三角形の与え方，3 点 D, E, F のとり方によって種々のことが考えられる。
このように，種々のとり方をしてみて，テスト時間内に解けるよう考えて，問題は作られている。

【Ⅱ】(数Ⅰ 図形と計量, 数と式, 2次関数) 20点

(1)

$$DE = \frac{1}{2} AC$$

$$EF = \frac{1}{2} AB$$

$$DF = \frac{1}{2} BC$$

$$\triangle DEF = \frac{1}{4} \triangle ABC$$

← 1点
← 1点

← 知識・技能
(義務教育段階)

(2)

直角をはさむ2辺が4, 8であることから

$$\triangle ABC = \frac{1}{2} \cdot 4 \cdot 8$$

$$= 16$$

答 16

← 1点

← 知識・技能
(義務教育段階)

(3)

$$(1)より \triangle DEF = \frac{1}{4} \triangle ABC$$

また(2)より $\triangle ABC = 16$ より

$$\triangle DEF = \frac{1}{4} \cdot 16$$

$$= 4$$

答 4

← 1点

← 知識・技能
(義務教育段階)

(4)

$$DE = \frac{1}{2} AC = 2$$

$$EF = \frac{1}{2} AB = \frac{5}{2}$$

$$DF = \frac{1}{2} BC = 3$$

ここまで ここまで

1点

1点

$$\triangle DEF = \frac{1}{4} \triangle ABC$$

1点

← 知識・技能
(義務教育段階)

(5)

余弦定理により

$$\cos A = \frac{5^2 + 4^2 - 6^2}{2 \cdot 5 \cdot 4} = \frac{1}{8}$$

1点

← 知識・技能
(数学 I + 義務教育段階)

(6)

$\sin^2 A + \cos^2 A = 1$ より

$$\sin^2 A = 1 - \left(\frac{1}{8}\right)^2$$

$$= \frac{63}{64}$$

$\sin A > 0$ より

$$\sin A = \frac{3\sqrt{7}}{8}$$

$\sin^2 A + \cos^2 A = 1$ を使う
ことを思いついて

1点

← 知識・技能
(数学 I + 義務教育段階)

正しい答に

1点

(7)

$$S_1 = \frac{1}{2} \cdot 5 \cdot 4 \cdot \sin A$$

$$= \frac{15\sqrt{7}}{4}$$

1点

← 知識・技能
(数学 I + 義務教育段階)

(8)

(4)の結果より $\triangle DEF = \frac{1}{4} \triangle ABC$

したがって

$$S_2 = \frac{1}{4} \cdot \frac{15\sqrt{7}}{4}$$

$$= \frac{15\sqrt{7}}{16}$$

正しい答に

1点

← 知識・技能
(義務教育段階)

(9)

$$AD = \frac{2}{5} \times 5 = 2$$

$$AF = \frac{3}{5} \times 4 = \frac{12}{5}$$

よって

$$\begin{aligned} S_3 &= \frac{1}{2} \cdot 2 \cdot \frac{12}{5} \cdot \frac{3\sqrt{7}}{8} \\ &= \frac{9\sqrt{7}}{10} \end{aligned}$$

AD, AF を正しく求めて

1点

← 知識・技能
(義務教育段階)

← 知識・技能
(数学 I + 義務教育段階)

正しい答に

1点

(10)

正弦定理より

$$\frac{6}{\sin A} = \frac{4}{\sin B} = \frac{5}{\sin C}$$

また(6)より $\sin A = \frac{3\sqrt{7}}{8}$ だったので

$$\sin B = \frac{\sqrt{7}}{4}, \quad \sin C = \frac{5\sqrt{7}}{16}$$

正弦定理を正しく
使えて

1点

← 知識・技能 (数学 I)

正しい答に

1点

(11)

$$BD = \frac{3}{5} \cdot 5 = 3, \quad BE = \frac{2}{5} \cdot 6 = \frac{12}{5} \text{ より}$$

$$\triangle BDE = \frac{1}{2} \cdot 3 \cdot \frac{12}{5} \cdot \frac{\sqrt{7}}{4} = \frac{9\sqrt{7}}{10}$$

$$CE = \frac{3}{5} \cdot 6 = \frac{18}{5}, \quad CF = \frac{2}{5} \cdot 4 = \frac{8}{5} \text{ より}$$

$$\begin{aligned} \triangle CEF &= \frac{1}{2} \cdot \frac{18}{5} \cdot \frac{8}{5} \cdot \frac{5\sqrt{7}}{16} \\ &= \frac{9\sqrt{7}}{10} \end{aligned}$$

1点

← 推測力 (数学 I)
($\triangle BDE$, $\triangle CEF$ も $\triangle ADF$ と同様に求めればよいことに気がつくこと)

← 知識・技能
(数学 I + 義務教育段階)
(具体的計算)

1点

(12)

$$\triangle DEF = \triangle ABC - \triangle ADF - \triangle BDE - \triangle CEF$$

$$= \frac{15\sqrt{7}}{4} - \frac{9\sqrt{7}}{10} - \frac{9\sqrt{7}}{10} - \frac{9\sqrt{7}}{10}$$

$$= \frac{21\sqrt{7}}{20}$$

1点

← 思考力 (数学 I)
($\triangle DEF$ を求める式に対して)

← 知識・技能

正しい答に

1点

上記の解答には、別解が存在する場合があります。その場合、技能、思考力の配点に留意しながら採点を行います。

(参考) 学 習 指 導 要 領 の 関 連 項 目	この問題は義務教育段階 数学 I の図形の計量、数と式の融合問題である。 (1) 中学校学習指導要領 数学〔第 3 学年〕 2 B (1) エ 基本的な立体の相似の意味と，相似な図形の相似比と面積比及び体積比の関係について理解すること。 (2) 小学校学習指導要領 算数〔第 5 学年〕 2 B (1) ア 三角形，平行四辺形，ひし形及び台形の面積の求め方を考えること。 (3) 中学校学習指導要領 数学〔第 3 学年〕 2 B (1) エ 基本的な立体の相似の意味と，相似な図形の相似比と面積比及び体積比の関係について理解すること。 (4) 中学校学習指導要領 数学〔第 3 学年〕 2 B (1) エ 基本的な立体の相似の意味と，相似な図形の相似比と面積比及び体積比の関係について理解すること。 (5) 数学 I 2 (2) ア 三角比 (ウ) 正弦定理・余弦定理 正弦定理や余弦定理について理解し，それらを用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求めること。 (6) 数学 I 2 (2) ア 三角比 (ア) 鋭角の三角比 鋭角の三角比の意味と相互関係について理解すること。 (7) 数学 I 2 (2) イ 図形の計量 三角比を平面図形や空間図形の考察に活用すること。 [用語・記号] 正弦，sin，余弦，cos，正接，tan (8) 中学校学習指導要領 数学〔第 3 学年〕 2 B (1) エ 基本的な立体の相似の意味と，相似な図形の相似比と面積比及び体積比の関係について理解すること。 (9) 数学 I 2 (2) イ 図形の計量 三角比を平面図形や空間図形の考察に活用すること。 [用語・記号] 正弦，sin，余弦，cos，正接，tan (10) 数学 I 2 (2) ア 三角比 (ウ) 正弦定理・余弦定理 正弦定理や余弦定理について理解し，それらを用いて三角形の辺の長さや角の大きさを
---	---

求めること。

(11) 数学 I

2 (2)

イ 図形の計量

三角比を平面図形や空間図形の考察に活用すること。

[用語・記号] 正弦, $\sin$, 余弦, $\cos$, 正接, $\tan$

(12) 数学 I

2 (1)

ア 数と集合

(ア) 実数

数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則計算をすること。

サンプル問題について

事業者名:株式会社リクルートマーケティングパートナーズ

測定ツール名:スタディサプリ 学びの活用力診断～ベーシック～

対象教科:英語

測定内容の区分:基本タイプ

サンプル問題番号(大問番号):【I】(C)

出題科目	中学校「英語」、高等学校「英語」の「コミュニケーション英語Ⅰ」																		
出題のポイント	本問（C）は、「聞くこと」に関する大問において、語句や設問形式を含めて、思考力・判断力・表現力を必要とする比較的難易度の高いものとして設定している。 1. 与えられた答えは「（ a ）物を（ b ）物に変えること」という内容であり、選択肢はそれぞれ以下の意味を持つ。 ア. (a)「不要な」 (b)「役立つ」 イ. (a)「重要な」 (b)「重要でない」 ウ. (a)「安価な」 (b)「高価な」 エ. (a)「古い」 (b)「新しい」 このうち、スクリプト中の「髪を寄付してかつらを作る」という内容の言い換えになる表現を思考・判断させ、正答選択肢のアを選ばせる。 2. 解答例は、スクリプトでは5文目にある内容である。与えられた質問と答えから、事前に適切な答えとなる表現を完成させるためには何を聞き取るべきかを思考・判断し、文法・文意上適切な英語表現を完成させる必要がある。																		
主として問う能力	<table><tr><th>小問番号</th><th>知識・技能</th><th>思考力・判断力・表現力等</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td>○</td></tr></table>				小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	1		○	2		○						
小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等																	
1		○																	
2		○																	
出題形式	<table><tr><th>小問番号</th><th>選択式</th><th>短答式</th><th>記述式</th></tr><tr><td>1</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td>○</td><td></td></tr></table>				小問番号	選択式	短答式	記述式	1	○			2		○				
小問番号	選択式	短答式	記述式																
1	○																		
2		○																	
主として問う技能（英語のみ）	<table><tr><th>小問番号</th><th>聞く</th><th>読む</th><th>話す</th><th>書く</th></tr><tr><td>1</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td></tr></table>				小問番号	聞く	読む	話す	書く	1	○				2	○			○
小問番号	聞く	読む	話す	書く															
1	○																		
2	○			○															

サンプル 問題	【Ⅰ】 英文を聞き、次の(A), (B), (C)の設問に答えよ。 (C) 1. 次の質問の答えとして、空所に当てはまる最も適切な組合せを1つ選び、記号で答えよ。 質問：What is becoming more common for people to do? 答え：To turn something (a) into something (b) ア. (a) unnecessary (b) useful イ. (a) important (b) unimportant ウ. (a) cheap (b) expensive エ. (a) old (b) new 2. 次の質問の答えとして、空所に入る適切な内容を英語で書け。 質問：What did the three-year-old girl do when she went to the hair salon? 答え：She () with her and asked the stylist to cut its hair. 《音声として流れる英文》 It is becoming more common for people, particularly women, to donate their hair to charity. The purpose of this activity is to make wigs for cancer patients who have lost their hair. Nowadays, many young girls are taking the opportunity to help and, surprisingly, even a three-year-old girl has made a donation. She not only had long hair, but also had the ability to understand how other people feel. She took her doll to the hair salon and asked the stylist to cut her doll's hair, too. Perhaps she wanted to increase the amount of donation as much as possible.
解答例	【Ⅰ】 リスニング問題 (C) 1. ア 2. took her doll 思考力・判断力・表現力（問2について） 問題用紙の「答え」の部分で与えられている“asked the stylist to cut its hair”と似た内容は、音声英文の5文目で流され、この直前の部分が記述すべき内容である。解答に際しては、問題用紙で与えられている情報から、事前に何を聞き取るべきかを思考・判断し、聞き取った内容を英語で表現する。採点に際しては、何を書くべきかを思考・判断する部分が適切であれば得点を与え（加点）、その内容を英語で表現する部分が不適切であれば減点する。 正答条件等（原則方針） 思考力・判断力： “her doll” 「人形」と “took” 「～を持って行った」という2つの要素が含まれていること。 表現力： 1語修正で1点減点 “her doll” 「人形」について、スペルミスは許容しない。herの代わりに、不定冠詞 a と定冠詞 the は許容する。無冠詞は許容しない。 “took” 「～を持って行った」について、スペルミスや時制の間違いは許容しない。英文の内容を理解した上で、自身の語彙力から似た意味の語の使用を試みたものは、スペルや時制のミスなど、致命的な間違いがなければ許容する。
(参考)学 習指導要 領の関連	コミュニケーション英語Ⅰ 2 内容 (1) ア 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。

項目	エ 聞いたり読んだりしたこと，学んだことや経験したことに基づき，情報や考えなどについて，簡潔に書く。 (2) ア リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴，話す速度，声の大きさなどに注意しながら聞いたり話したりすること。 イ 内容の要点を示す語句や文，つながりを示す語句などに注意しながら読んだり書いたりすること。 ウ 事実と意見などを区別して，理解したり伝えたりすること。 中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) 言語活動 ア 聞くこと (ア) 強勢，イントネーション，区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ，正しく聞き取ること。 (イ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて，情報を正確に聞き取ること。 (ウ) まとまりのある英語を聞いて，概要や要点を適切に聞き取ること。 エ 書くこと (ア) 文字や符号を識別し，語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。 (ウ) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり，感想，賛否やその理由を書いたりなどすること。 (3) 言語材料 ア 音声 イ 文字及び符号 ウ 語，連語及び慣用表現 エ 文法事項
----	--

サンプル問題について

事業者名:株式会社リクルートマーケティングパートナーズ
 測定ツール名:スタディサプリ 学びの活用力診断～ベーシック～
 対象教科:英語
 測定内容の区分:基本タイプ
 サンプル問題番号(大問番号):【Ⅱ】

出題科目	中学校「英語」、高等学校「英語」の「コミュニケーション英語Ⅰ」																												
出題のポイント	1. グラフから「特徴は何か」という事実を読み取らせ、それを英語で表現させる問題となっている。																												
主として問う能力	<table><tr><td>小問番号</td><td>知識・技能</td><td colspan="2">思考力・判断力・表現力等</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td colspan="2">○</td></tr></table>				小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等		1		○																		
小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等																											
1		○																											
出題形式	<table><tr><td>小問番号</td><td>選択式</td><td>短答式</td><td>記述式</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 「話すこと」に関する、発言式の出題形式である。				小問番号	選択式	短答式	記述式	1																				
小問番号	選択式	短答式	記述式																										
1																													
主として問う技能（英語のみ）	<table><tr><td>小問番号</td><td>聞く</td><td>読む</td><td>話す</td><td>書く</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr></table>				小問番号	聞く	読む	話す	書く	1			○																
小問番号	聞く	読む	話す	書く																									
1			○																										
サンプル問題	【Ⅱ】 次のグラフは、「私の参加により、変えて欲しい社会現象が少し変えられるかもしれないと思うか」という質問に対する、日本を含む4カ国の高校生の答えをまとめたものである。この結果を踏まえ、これから話される英語の質問に対して、英語で答えよ。 <table><caption>Stacked Bar Chart Data (Estimated Percentages)</caption><thead><tr><th>Country</th><th>全くそう思う</th><th>まあそう思う</th><th>あまりそう思わない</th><th>全くそう思わない</th></tr></thead><tbody><tr><td>日本</td><td>5%</td><td>25%</td><td>50%</td><td>20%</td></tr><tr><td>中国</td><td>20%</td><td>45%</td><td>25%</td><td>10%</td></tr><tr><td>韓国</td><td>10%</td><td>55%</td><td>25%</td><td>10%</td></tr><tr><td>米国</td><td>15%</td><td>55%</td><td>20%</td><td>10%</td></tr></tbody></table> ■ 全くそう思う ■ まあそう思う ■ あまりそう思わない □ 全くそう思わない 《質問英文》 1. What do you think the characteristics of Japanese high school students are?				Country	全くそう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない	日本	5%	25%	50%	20%	中国	20%	45%	25%	10%	韓国	10%	55%	25%	10%	米国	15%	55%	20%	10%
Country	全くそう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない																									
日本	5%	25%	50%	20%																									
中国	20%	45%	25%	10%																									
韓国	10%	55%	25%	10%																									
米国	15%	55%	20%	10%																									

解答例	【Ⅱ】スピーキング問題 1. I think we don't believe that we can change our society, compared with students from other countries. 思考力・判断力・表現力 グラフで示されている「日本の高校生の特徴」について、読み取った内容を答える。何を話すべきかを思考・判断する部分が適切であれば得点を与え（加点）、その内容を英語で表現する部分が不適切であればそこから減点する。 正答条件等（原則方針） 思考力・判断力：持ち点0から開始し、以下の要素で加点する。 ①「肯定が少ない」や「否定が多い」、その他のグラフから読み取れる特徴に合致してる内容が述べられている（加点2） ② 解答例の“compared with students from other countries”のような追加の情報が付加している（加点2） 表現力：上記で得た点に対して、以下の要素で減点する（0点未満にはしない）。 ③ 英語の音声的特徴のないもの、特徴に致命的な誤りを含むもの（減点2） ④ 文構造に誤りがあるもの、語句のみで答えているもの（減点2） （内容が適切に聞き取れないものは、上記2つで減点4とする） ※ we に相当する語は、they や Japanese students などでもよい。 ※ ぎこちない表現でも、ミスがなく、意思疎通が可能であると考えられるものは減点しない。冠詞や時制、動詞の語形のミスは原則として許容する。 ※ 何も答えられない場合、質問文を聞き返してきた場合、質問に関係ない内容を答えた場合の対応 “What are the characteristics of Japanese students?” という内容を1語ずつゆっくりと質問する。なお、その場合は①では得点は与えない（0点とする）。
（参考）学習指導要領の関連項目	コミュニケーション英語Ⅰ 2 内容 (1) ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。 (2) ア リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら聞いたり話したりすること。 ウ 事実と意見などを区別して、理解したり伝えたりすること。 中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) 言語活動 イ 話すこと (ア) 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく発音すること。 (イ) 自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。 (ウ) 聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすること。 (エ) 与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。 (3) 言語材料 - ア 音声 - イ 文字及び符号 - ウ 語、連語及び慣用表現 - エ 文法事項

サンプル問題について

事業者名:株式会社リクルートマーケティングパートナーズ
 測定ツール名:スタディサプリ 学びの活用力診断～ベーシック～
 対象教科:英語
 測定内容の区分:基本タイプ
 サンプル問題番号(大問番号):【Ⅲ】(A)(B)(C)

出題科目	中学校「英語」、高等学校「英語」の「コミュニケーション英語Ⅰ」														
出題のポイント	選択式の(A)は知識・技能の問題であるが、ある程度の思考・判断をさせる。(B)と(C)は短答式であり、自分で答えとなる語を思考・判断させる。 (A) 1. 不定詞(ア)と分詞(イ・ウ)がともに形容詞の働きをするという知識を前提に、文脈から不定詞が正しいと思考・判断をさせる。 2. 動詞 invite「～を招待する」の意味や受動態に関する知識を前提に、多少複雑な構文の中で「招待された」という受動の文意がふさわしいと思考・判断をさせる。 3. 選択肢の語はすべて名詞節を作る働きがあるという知識を前提に、文脈からイのみが正しいと思考・判断をさせる。 4. “there is/are” 構文の知識を前提にしつつ、一般的に用いられる is や are が時制等の理由から誤りであり、be 動詞の代わりに lived を用いるのがふさわしいと思考・判断をさせる。 5. can「可能である」=be able to「できる」という知識を持つ生徒も多いが、文意から can「可能(性)」が正しいと思考・判断をさせる。 6. 節と節を繋ぐ働きを持つ語の知識を前提に、2つの節の関係が「理由」と「結果」であると思われ、思考・判断をさせ、選択肢を選ばせる。また、「理由」という部分だけで because を選んだり、「予約」や「オフィス」という時間や場所に関連する語から、when や where を選んだりしてはいけないと思考・判断をさせる。 (B) 1. 英文は直訳では「私の趣味はサッカーを観ること」といった内容であるが、与えられた日本語は「私の趣味はサッカー観戦」という若干の意識になっている。この意識に惑わされず、文法・文意上正しい語が何であるかを思考・判断させ、表現させる。 2. 英文は直訳では「私の名前が呼ばれたのを聞いた」といった内容であるが、与えられた日本語は「私は誰かに呼ばれた気がした」という若干の意識になっている。この意識に惑わされず、文法・文意上正しい語が何であるかを思考・判断させ、表現させる。 (C) 1. 1文目を読み内容や状況を判断させ、2文目の与えられた内容から同義となる文を思考・判断させ、与えられたアルファベットを手掛かりに、空所にふさわしい語を表現させる。 2. 同上														
主として問う能力	<table><tr><th>小問番号</th><th>知識・技能</th><th>思考力・判断力・表現力等</th></tr><tr><td>(A) 1～6</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>(B) 1～2</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>(C) 1～2</td><td></td><td>○</td></tr></table>			小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	(A) 1～6	○		(B) 1～2		○	(C) 1～2		○
小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等													
(A) 1～6	○														
(B) 1～2		○													
(C) 1～2		○													

出題形式	<table><tr><th>小問番号</th><th>選択式</th><th>短答式</th><th>記述式</th></tr><tr><td>(A) 1～6</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>(B) 1～2</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>(C) 1～2</td><td></td><td>○</td><td></td></tr></table>	小問番号	選択式	短答式	記述式	(A) 1～6	○			(B) 1～2		○		(C) 1～2		○					
小問番号	選択式	短答式	記述式																		
(A) 1～6	○																				
(B) 1～2		○																			
(C) 1～2		○																			
主として問う技能 (英語のみ)	<table><tr><th>小問番号</th><th>聞く</th><th>読む</th><th>話す</th><th>書く</th></tr><tr><td>(A) 1～6</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>(B) 1～2</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>(C) 1～2</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr></table>	小問番号	聞く	読む	話す	書く	(A) 1～6		○			(B) 1～2		○			(C) 1～2		○		
小問番号	聞く	読む	話す	書く																	
(A) 1～6		○																			
(B) 1～2		○																			
(C) 1～2		○																			
サンプル問題	【Ⅲ】 次の(A), (B), (C)の設問に答えよ。 (A) 次の各問の空所に当てはまる最も適切なものを1つずつ選び、記号で答えよ。 1. Armstrong was the first person () on the moon. ア. to walk イ. walked ウ. walking エ. walks 2. Did everyone who () come to the party? ア. invited イ. invites ウ. was invited エ. was inviting 3. The fact is () he was not there at that time. ア. if イ. that ウ. what エ. whether 4. Once upon a time, there () an old man and an old woman. ア. are イ. happened ウ. is エ. lived 5. Anybody () make a mistake, so never mind. ア. can イ. has to ウ. is able to エ. must 6. I had an appointment to see the doctor, and that's () I left the office early. ア. because イ. when ウ. where エ. why (B) 次の各問の日本語と英文がほぼ同じ意味になるよう、空所に当てはまる最も適切な1語を答えよ。なお、解答は [] で示された語を別の時制や品詞に変えて答えること。 1. 私の趣味はサッカー観戦で、毎週日曜日にはプレーもする。 My hobby is () soccer and I also play it every Sunday. [watch] 2. 私は誰かに呼ばれた気がしたが、周りには誰もいなかった。 I heard my name (), but there was nobody there. [call] (C) 次の各問の英文(a)と(b)がほぼ同じ意味になるよう、空所に当てはまる最も適切な1語を答えよ。なお、解答は空所に示されたアルファベットで始まる語を、語頭のアルファベットを省略せずに答えること。 1. (a) Sir, have you decided? (b) (M) I take your order, sir? 2. (a) The sense of values people have is diverse. (b) Not everybody has the (s) values.																				

解答例	【Ⅲ】 文法問題 (A) 1. ア 2. ウ 3. イ 4. エ 5. ア 6. エ (B) 1. watching 2. called (C) 1. May 2. same 思考力・判断力・表現力 (B), (C)ともに文脈などに基づいて、適切な英文となるように、ふさわしい語を思考・判断する。 正答条件等 スペルミスはすべて許容しない。 大文字・小文字のミスはすべて許容する。
(参考)学習指導要領の関連項目	コミュニケーション英語 I 2 内容 (1) イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。 (2) イ 内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読んだり書いたりすること。 中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) 言語活動 - ウ 読むこと (ア) 文字や符号を識別し、正しく読むこと。 (イ) 書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること。 (ウ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。 (3) 言語材料 - イ 文字及び符号 - ウ 語，連語及び慣用表現 - エ 文法事項

サンプル問題について

事業者名:株式会社リクルートマーケティングパートナーズ
 測定ツール名:スタディサプリ 学びの活用力診断～ベーシック～
 対象教科:英語
 測定内容の区分:基本タイプ
 サンプル問題番号(大問番号):【IV】

出題科目	中学校「英語」、高等学校「英語」の「コミュニケーション英語Ⅰ」																		
出題のポイント	1. (a) (b)ともに、1つ目では、下から4行目にある“little sister”「妹」を含む発言を元に解答を表現させる。2つ目では、下から3行目にある“big sister”「姉」を含む発言が、設問文の主語にあたる「アリス」の発言ではあるが、その主たる考えではないことを思考・判断させ、また、下から13行目にある“like my father”「父のよう」を元に解答を表現させる。1つ目は本文で直接的に述べられているもの、2つ目は必ずしも直接的には述べられていないものを問う設問になっている。																		
主として問う能力	<table><tr><th>小問番号</th><th>知識・技能</th><th colspan="2">思考力・判断力・表現力等</th></tr><tr><td>1 (a)</td><td></td><td colspan="2">○</td></tr><tr><td>1 (b)</td><td></td><td colspan="2">○</td></tr></table>				小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等		1 (a)		○		1 (b)		○				
小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等																	
1 (a)		○																	
1 (b)		○																	
出題形式	<table><tr><th>小問番号</th><th>選択式</th><th>短答式</th><th>記述式</th></tr><tr><td>1 (a)</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>1 (b)</td><td></td><td></td><td>○</td></tr></table>				小問番号	選択式	短答式	記述式	1 (a)		○		1 (b)			○			
小問番号	選択式	短答式	記述式																
1 (a)		○																	
1 (b)			○																
主として問う技能 (英語のみ)	<table><tr><th>小問番号</th><th>聞く</th><th>読む</th><th>話す</th><th>書く</th></tr><tr><td>1 (a)</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>1 (b)</td><td></td><td>○</td><td></td><td>○</td></tr></table>				小問番号	聞く	読む	話す	書く	1 (a)		○			1 (b)		○		○
小問番号	聞く	読む	話す	書く															
1 (a)		○																	
1 (b)		○		○															

サンプル
問題

【IV】 次の英文を読んで、設問に答えよ。

Mary: When are you leaving for Japan?

Alice: On the 15th of next month. I'm planning to arrive in Tokyo two weeks before my university course starts so that I can find ^{*1}accommodation and get settled.

Mary: Oh, I thought you were going to stay in the university ^{*2}dormitory. Your meals would all be provided there and all you have to do is focus on your studies.

Alice: Yeah, that's what my dad says, too. He seems to be really worried that I won't be able to cope with the language barrier and cultural differences.

Mary: And what was your response?

Alice: Well, I told him that staying in the dormitory would be the easiest thing to do, but I want to challenge myself and make the most of my study abroad experience. I want to meet new people and test my Japanese ability by putting myself in unfamiliar situations that will force me to become a stronger person and really improve my Japanese.

Mary: But wouldn't that defeat the purpose of a study abroad program? The purpose of going overseas is to study, and that is a challenging experience in itself. Do you know anyone in Tokyo?

Alice: No, no one. This will be my first time going there!

Mary: What?! I thought you visited Tokyo last year.

Alice: No, that was Hokkaido, far away from Tokyo.

Mary: Well, in that case, I'm even more worried for you now, and can totally understand why your father would be anxious. Are you sure you want to live out there on your own?

Alice: Oh Mary, you sound like my father! Relax, you take life too seriously. I see my study abroad experience as more of an exciting adventure. I understand and I appreciate your concern but you know that studying abroad has been a dream of mine for many years. Now that the opportunity has come, I want to make the most of my time in Japan.

Mary: (Sighing) Alice, as long as I've known you, you've had that adventurous spirit within you. I know that anything I say will not be enough to make you change your mind. (Sighs again) Feel free to call me anytime! I can't pretend that I am not worried.

Alice: Thanks Mary! I know that only a good friend like you would understand ...

Mary: And I will be checking up on you regularly as well, so make sure your phone is on. You know I am doing this because I think of you as my little sister.

Alice: (Laughs) Yes, I know, I know ... Hey big sister, can I ask you a favor?

Mary: What is it?

Alice: Can you help convince my dad that I don't need to stay in the dormitory in Tokyo?!

(注) *1 accommodation: 下宿 (学生などが間借りする他人の家)

*2 dormitory: 寮, 寄宿舎

1. (a) 本文の内容に合うように、次の空所に当てはまる最も適切な内容を日本語で書け。

メアリーはアリスのことを () のような存在だと考えている。

アリスはメアリーのことを () のように心配してくれる人物だと感じた。

- (b) 上の(a)を英訳し、本文の内容に合う英文を完成させるとき、次の空所に当てはまる適切な内容を英語で書け。

Mary thinks of Alice as [].

Alice felt that Mary is someone who [].

解答例	【IV】読解問題 1. (a) メアリーはアリスのことを（ 妹 ）のような存在だと考えている。 アリスはメアリーのことを（ 父親 ）のように心配してくれる人物だと感じた。 (b) Mary thinks of Alice as [being like a little sister]. Alice felt that Mary is someone who [worries about Alice just like her father]. 思考力・判断力・表現力 (a), (b)ともに、1つ目は下から4行目の“I think of you as my little sister.”が記述すべき内容の根拠になっている。2つ目は、この直後の下から3行目の“big sister”ではなく、下から13行目の“like my father”が記述すべき内容の根拠になっている。両者とも、(a)は根拠とする内容を思考・判断して本文からその場所を選び出せれば解ける問題であり、(b)はそれに基づいて英語で表現する必要がある問題である。採点に際しては、「思考力・判断力」と「表現力」に分かれて配点されているが、前提たる「思考力・判断力」の設問である(a)が誤っている（未記入を含む）場合でも、（知識と技能に基づく）「表現力」で、本文に基づく文法上正しい英文が記述できていれば減点しない。 正答条件等（原則方針） (a) 漢字のミスは、正しい表記が推断できれば許容。すべて平仮名と片仮名を許容。 ただし、「許容せず」の例のような片仮名訳は許容しない。 1つ目 思考力・判断力（配点1）：【許容する】「妹」「幼い妹」とそれに類する表現 【許容せず】上記に合致しない表現 「シスター」「リトルシスター」など片仮名訳 2つ目 思考力・判断力（配点1）：【許容する】「父親」とそれに類する表現 【許容せず】「姉」を含む上記に合致しない表現 「ファザー」など片仮名訳 (b) スペルミスはすべて許容しない。大文字・小文字のミスも許容しない。 1語につき減点1とする。英文としてまったく成立していないものは得点を与えない。 原則として、文法・語法のミスも減点対象とするが、ごこちない表現でも、ミスがなく、意思疎通が可能であると考えられるものは減点しない。 1つ目 表現力（配点3）：以下の要素に配点1ずつで分けて採点する。 being：不定冠詞 a を許容。定冠詞 the は許容しない。existence など多少ごこちない表現であっても、語意が通れば許容。 like：such as などを用いた表現でも、文法上の問題がなく、語意が通れば許容。 a little sister：無冠詞と定冠詞 the は許容しない。a younger sister や a sister を許容。 2つ目 表現力（配点3）：以下の要素に配点1ずつで分けて採点する。 worries about Alice：is concerned about her など、語意が通れば許容。 just like：just はなくてもよい。as if などを用いた表現でも、文法上の問題がなく、語意が通れば許容。 her father：不定冠詞 a を許容。無冠詞と定冠詞 the は許容しない。
（参考）学習指導要領の関連項目	コミュニケーション英語 I 2 内容 (1) イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。 エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。 (2) イ 内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読んだり書いたりすること。 ウ 事実と意見などを区別して、理解したり伝えたりすること。

中学校学習指導要領 外国語

2 内容

(1) 言語活動

ウ 読むこと

- (ア) 文字や符号を識別し，正しく読むこと。
- (イ) 書かれた内容を考えながら黙読したり，その内容が表現されるように音読すること。
- (ウ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。
- (エ) 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう，書かれた内容や考え方などをとらえること。

エ 書くこと

- (ア) 文字や符号を識別し，語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。
- (イ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。
- (ウ) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり，感想，賛否やその理由を書いたりなどすること。
- (エ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように，文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。

(3) 言語材料

イ 文字及び符号

ウ 語，連語及び慣用表現

エ 文法事項

サンプル問題について

事業者名:株式会社リクルートマーケティングパートナーズ
 測定ツール名:スタディサプリ 学びの活用力診断～ベーシック～
 対象教科:英語
 測定内容の区分:基本タイプ
 サンプル問題番号(大問番号):【VI】

出題科目	中学校「英語」、高等学校「英語」の「コミュニケーション英語Ⅰ」													
出題のポイント	傍点の付された「あの」が意味する日本語における独特なニュアンスを、外国人に何と伝えるかを思考・判断させ、表現させる。現実のコミュニケーションにおける思考・判断から表現へという流れに準じて、(a)では伝えるべき内容を日本語で思考・判断させ、それを(b)で英語で表現させる問題構成としている。													
主として問う能力	<table><tr><td>小問番号</td><td>知識・技能</td><td colspan="2">思考力・判断力・表現力等</td></tr><tr><td>(a) (b)</td><td></td><td colspan="2">○</td></tr></table>				小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等		(a) (b)		○			
小問番号	知識・技能	思考力・判断力・表現力等												
(a) (b)		○												
出題形式	<table><tr><td>小問番号</td><td>選択式</td><td>短答式</td><td>記述式</td></tr><tr><td>(a) (b)</td><td></td><td></td><td>○</td></tr></table>				小問番号	選択式	短答式	記述式	(a) (b)			○		
小問番号	選択式	短答式	記述式											
(a) (b)			○											
主として問う技能 (英語のみ)	<table><tr><td>小問番号</td><td>聞く</td><td>読む</td><td>話す</td><td>書く</td></tr><tr><td>(a) (b)</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr></table>				小問番号	聞く	読む	話す	書く	(a) (b)				○
小問番号	聞く	読む	話す	書く										
(a) (b)				○										
サンプル問題	【Ⅵ】 スーパーマーケットで下の掲示を見た外国人 (Tom) と日本人 (Ken) の対話を読んで、次の問いに答えよ。 Tom : What does this sign say, and what do the first two words mean? Ken : It says ‘that rice ball has arrived in the store!’ and the first two words mean ‘that’. Tom : What is the purpose of using dots to emphasize the first two words? あのおにぎり 入荷しました！ (a) 対話に続く内容として、次の空所に当てはまる適切な内容を日本語で書け。 お店はお客さんに () と思わせようとしているんだ。 (b) 上の(a)を英訳し、対話に続く英文を完成させるとき、次の空所に当てはまる適切な内容を英語で書け。 The store intends to make customers think that [].													

解答例	【Ⅵ】 記述問題 (a) お店はお客さんに（ この店のおにぎりは有名である ）と思わせようとしているんだ。 (b) The store intends to make customers think that [the rice balls in this store are famous]. 思考力・判断力・表現力 (a)は書くべき内容を思考・判断すれば解ける問題であり、(b)はそれに基づいて英語で表現する必要がある問題である。採点に際しては、「思考力・判断力」と「表現力」に分かれて配点されているが、前提たる「思考力・判断力」の設問である(a)が誤っている（未記入を含む）場合でも、（知識と技能に基づく）「表現力」で、掲示の内容に基づく文法上正しい英文が記述できていれば減点しない。 正答条件等（原則方針） (a) 漢字のミスは、正しい表記が推断できれば許容。すべて平仮名と片仮名を許容。 思考力・判断力（配点4）： 【許容する】店が宣伝の掲示で傍点を付した理由として適切なものであれば、可能な限り許容する。 （例）「どのおにぎりなんだ」「なんで点がつけられているんだ」「おもしろいおにぎりなんだ」「おにぎりを買おう」など、客の興味を引こうとしていることに関する内容。 【許容せず】上記以外。またコミュニケーションを積極的にとる姿勢のないものは原則として許容しない。 （例）「日本語っておもしろい」「傍点は印刷ミスだ」「おにぎりなんてどうでもいい」など、的の外れた内容や、相手に聞かれたことに答える姿勢のない内容。 (b) スペルミスはすべて許容しない。大文字・小文字のミスも許容しない。 1語につき減点1とする。英文としてまったく成立していないものは得点を与えない。 原則として、文法・語法のミスも減点対象とするが、ごちない表現でも、ミスがなく、意思疎通が可能であると考えられるものは減点しない。 表現力（配点4）：(a)の正答条件に準じた内容が文法上問題なく書かれていれば、必ずしも(a)の英訳となっていなくても減点しない。
（参考）学習指導要領の関連項目	コミュニケーション英語Ⅰ 2 内容 (1) エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。 (2) イ 内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読んだり書いたりすること。 中学校学習指導要領 外国語 2 内容 (1) 言語活動 エ 書くこと (ア) 文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。 (イ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。 (ウ) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどすること。 (エ) 身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くこと。 (オ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。 (3) 言語材料

	イ 文字及び符号 ウ 語，連語及び慣用表現 エ 文法事項
--	------------------------------------